

あいち森と緑づくり事業
アンケート結果

<事業関係者アンケート>

令和5年1月

愛知県

5 提案型里山林整備事業 森林所有者アンケート	37
(1) 森や緑を育むこと・木材利用とSDGsの関係	37
(2) 里山林整備の認知度	39
(3) 事業実施による効果	41
(4) 事業に対する満足度	43
(5) 整備後に森林に行く回数	45
(6) 今後の事業継続	47
6 提案型里山林整備事業 地域活動団体アンケート	49
(1) 森や緑を育むこと・木材利用とSDGsの関係	49
(2) 里山林整備の認知度	50
(3) 事業実施による森林の変化	51
(4) 事業に対する満足度	52
(5) 今後の事業継続	53
7 都市緑化推進事業 施設管理者アンケート	54
(1) 都市緑化の推進とSDGsの関係	54
(2) 事業を知った手段	55
(3) 事業実施の理由	55
(4) 事業実施による効果(直接的効果)	56
(5) 事業実施による効果(間接的効果)	57
(6) 事業実施による校庭・園庭の利用のしかたの変化	58
(7) 事業実施による子どもたちの変化	58
(8) 事業実施による子どもたちへの効果	59
(9) 事業実施による子どもたちや保護者の反応	60
(10) 事業実施による施設利用者や来訪者、従業員等の反応	61
(11) 緑化した施設等の広報	62
(12) 事業内容の満足度	63
(13) 今後の事業継続	63
8 都市緑化推進事業 緑地・緑化事業者アンケート	64
(1) 都市緑化の推進とSDGsの関係	64
(2) 事業を知った手段	64
(3) 事業実施の理由	65
(4) 都市の緑の多様な機能の認知度	66
(5) 事業実施による効果(直接的効果)	65
(6) 事業実施による効果(間接的効果)	67
(7) 事業実施箇所の広報	68
(8) 事業内容の満足度	69
(9) 今後の事業継続	69

調査概要

1 調査の概要	2
2 この報告書のみかた	3

調査結果

1 人工林整備事業(間伐) 森林所有者アンケート	6
(1) 間伐とSDGsの関係	6
(2) 事業実施による効果	8
(3) 強度の間伐	10
(4) 事業に対する満足度	12
(5) 今後の事業継続	14
(6) 防災・減災対策の継続	16
(7) 伐倒木有効利用の継続	18
2 人工林整備事業(間伐) 事業者アンケート	20
(1) 事業受注の有無	20
(2) 事業開始による新規雇用の有無	21
(3) 新規就労者の事業への従事状況	22
(4) 新規雇用しなかった理由	24
(5) 事業に従事していない理由	25
(6) 間伐とSDGsの関係	25
(7) 防災・減災対策の継続	26
(8) 伐倒木有効利用の継続	26
3 人工林整備事業(花粉症対策苗木の植栽) 森林所有者アンケート	27
(1) 森林が若返ることとSDGsの関係	27
(2) 事業に対する満足度(花粉症対策苗木の植栽)	29
(3) 事業に対する満足度(獣害防止対策)	31
(4) 今後の事業継続	33
4 人工林整備事業(花粉症対策苗木の植栽) 事業者アンケート	35
(1) 森林が若返ることとSDGsの関係	35
(2) 事業に対する満足度(花粉症対策苗木の植栽)	35
(3) 事業に対する満足度(獣害防止対策)	36
(4) 今後の事業継続	36
5 提案型里山林整備事業 森林所有者アンケート	37
(1) 森や緑を育むこと・木材利用とSDGsの関係	37
(2) 里山林整備の認知度	39
(3) 事業実施による効果	41
(4) 事業に対する満足度	43
(5) 整備後に森林に行く回数	45
(6) 今後の事業継続	47
6 提案型里山林整備事業 地域活動団体アンケート	49
(1) 森や緑を育むこと・木材利用とSDGsの関係	49
(2) 里山林整備の認知度	50
(3) 事業実施による森林の変化	51
(4) 事業に対する満足度	52
(5) 今後の事業継続	53
7 都市緑化推進事業 施設管理者アンケート	54
(1) 都市緑化の推進とSDGsの関係	54
(2) 事業を知った手段	55
(3) 事業実施の理由	55
(4) 事業実施による効果(直接的効果)	56
(5) 事業実施による効果(間接的効果)	57
(6) 事業実施による校庭・園庭の利用のしかたの変化	58
(7) 事業実施による子どもたちの変化	58
(8) 事業実施による子どもたちへの効果	59
(9) 事業実施による子どもたちや保護者の反応	60
(10) 事業実施による施設利用者や来訪者、従業員等の反応	61
(11) 緑化した施設等の広報	62
(12) 事業内容の満足度	63
(13) 今後の事業継続	63
8 都市緑化推進事業 緑地・緑化事業者アンケート	64
(1) 都市緑化の推進とSDGsの関係	64
(2) 事業を知った手段	64
(3) 事業実施の理由	65
(4) 都市の緑の多様な機能の認知度	66
(5) 事業実施による効果(直接的効果)	65
(6) 事業実施による効果(間接的効果)	67
(7) 事業実施箇所の広報	68
(8) 事業内容の満足度	69
(9) 今後の事業継続	69
9 環境活動・学習推進事業 事業実施団体アンケート	70
(1) 森林の手入れ・都市緑化とSDGsの関係	70
(2) 活動継続の課題	71
(3) 事業実施による効果	72
(4) 今後の事業活用の意向	73
(5) 事業を活用しない理由	74
(6) 今後の事業継続	75
10 木の香る都市(まち)づくり事業 支援施設(建築主様)アンケート	76
(1) 木材利用とSDGsの関係	76
(2) 事業に対する満足度	77
(3) 事業の有効性	77
(4) 事業実施による施設利用者の反応	78
(5) 今後の事業継続	78
11 木の香る都市(まち)づくり事業 建築設計者アンケート	79
(1) 木材利用とSDGsの関係	79
(2) 事業実施による効果	79
(3) 事業の有効性	80
(4) 事業実施による建築主様の反応	80
(5) 今後の事業継続	81
(6) 木材利用のPRに効果的な施設	81
12 里山林保全活用指導者養成研修 受講者アンケート	82
(1) 森林整備とSDGsの関係	82
(2) 研修の受講年度	84
(3) 受講コース	86
(4) 講義内容の良かった点(森の自然教育コース)	88
(5) 講義内容の良かった点(森の自然教育コース)	90
(6) 講義内容の良かった点(森女養成コース)	92
(7) 講義内容の良かった点(森女養成コース)	94
(8) 講義内容の良かった点(里山暮らしコース)	96
(9) 講義内容の良かった点(里山暮らしコース)	98
(10) 研修の有効性	100
(11) 今後の事業継続	102

調査票

調査概要

1 調査の概要

(1) 調査の目的

あいち森と緑づくり税・事業の事業評価のために、事業関係者の事業に対する有効性・満足度・今後の期待度等の把握をし、調査分析を行い、今後の税・事業の在り方について検討するための基礎資料とする。

(2) アンケート調査の項目と回収結果

調査の項目	送付数	回答数	回答率
1 人工林整備事業（間伐） 森林所有者アンケート	464	328	71.1%
2 人工林整備事業（間伐） 事業体アンケート	21	21	100%
3 人工林整備事業（花粉症対策苗木の植栽） 森林所有者アンケート	24	17	70.8%
4 人工林整備事業（花粉症対策苗木の植栽） 事業体アンケート	7	7	100%
5 提案型里山林整備事業 森林所有者アンケート	45	34	75.6%
6 提案型里山林整備事業 地域活動団体アンケート	12	11	91.7%
7 都市緑化推進事業 施設管理者アンケート	35	26	74.3%
8 都市緑化推進事業 緑地・緑化事業者アンケート	51	28	54.9%
9 環境活動・学習推進事業 事業実施団体アンケート	140	114	81.4%
10 木の香る都市（まち）づくり事業 支援施設（建築主様）アンケート	32	23	71.9%
11 木の香る都市（まち）づくり事業 建築設計者アンケート	26	13	50.0%
12 里山林保全活用指導者養成研修 受講者アンケート	62	36	58.1%
計	916	658	71.8%

事業-2

(3) 調査の設計

- ① 調査地域 愛知県
- ② 調査対象 森林所有者、森林整備事業体、地域活動団体、芝生化事業者、施設管理者、事業実施団体、支援施設管理者、建築設計士・事務所、研修受講者
- ③ 標本数 916
- ④ 抽出方法 1 については、層化無作為抽出法
2～12 については、全数調査
- ⑤ 調査方法 郵送法
- ⑥ 調査期間 令和4年10月21日～11月4日

(4) 調査委託先

株式会社中部タイム・エージェント 名古屋事務所

2 この報告書のみかた

- ・回答率（%）は、小数第2位を四捨五入したため、合計が100%にならない場合がある。また、小計についても同様に異なる場合がある。
- ・1人（法人又は団体）の対象者に複数の回答を認めたものについては、その項目を選んだ人（法人又は団体）が回答者全体に占める割合を表しており、通常その比率の合計は100%を超える。
- ・調査結果については、統計上多少の誤差（標本誤差）が生じることがあり、調査結果をみる場合には、次のような一定の幅をもたせてみる必要がある。
- ・標本誤差は、次の式で算出される。

$$\text{標本誤差（\%）} = \pm 2 \sqrt{\frac{P(100-P)}{N}}$$

P: 回答率（%）
N: 回答者数（人、法人又は団体）

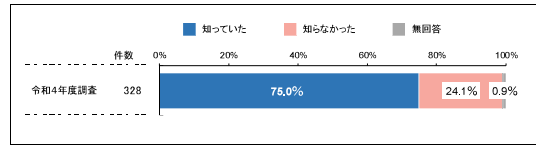
事業-3

1 人工林整備事業（間伐） 森林所有者アンケート

送付数：464/回答数：328 回答率：71.1%

(1) 間伐とSDGsの関係

問1 間伐や森林が若返ることは、二酸化炭素吸収量を増やす（カーボンニュートラルの取組に貢献）とともに、SDGsの様々なゴールにつながっていることを知っていましたか。



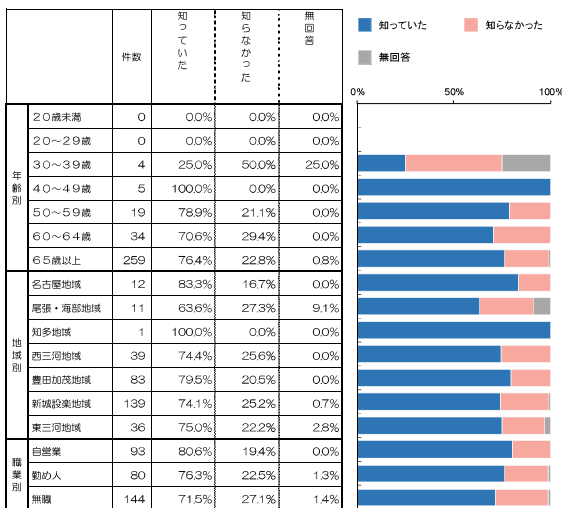
間伐とSDGsの関係について、「知っていた」と答えた人の割合が75.0%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は24.1%となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

調査結果

事業-6

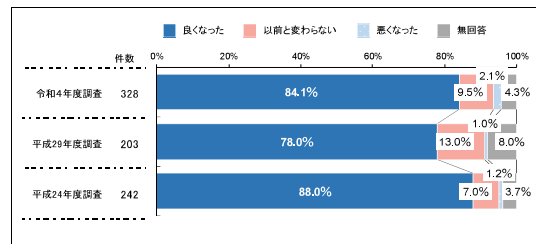
間伐とSDGsの関係（年齢別、地域別、職業別）



事業-7

(2) 事業実施による効果

問2 あいち森と緑づくり事業で行った間伐で、あなたの森林が良くなったと思いますか。

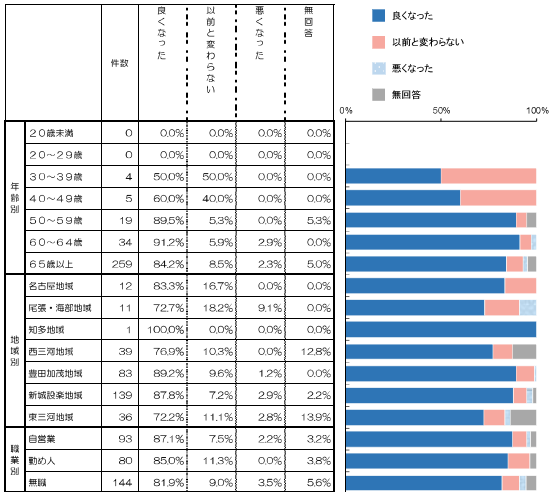


事業実施による効果について、「良くなった」と答えた人の割合が84.1%と最も高く、続いて「以前と変わらない」（9.5%）、「悪くなった」（2.1%）の順となっている。

過去の調査と比較すると、「良くなった」と答えた人の割合が平成29年度（78.0%）に比べて6.1ポイント増加している。

事業-8

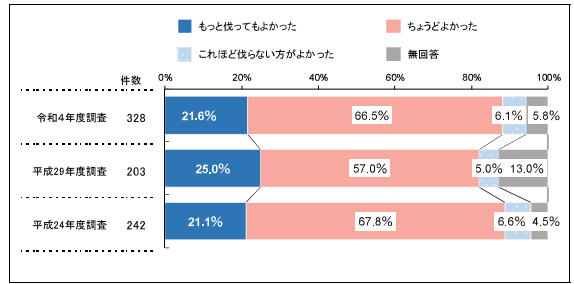
事業実施による効果（年齢別、地域別、職業別）



事業-9

(3) 強度の間伐

問3 林業で一般的に行われる間伐よりも強度な間伐（本数率で約40%）を実施して、どう思いましたか。

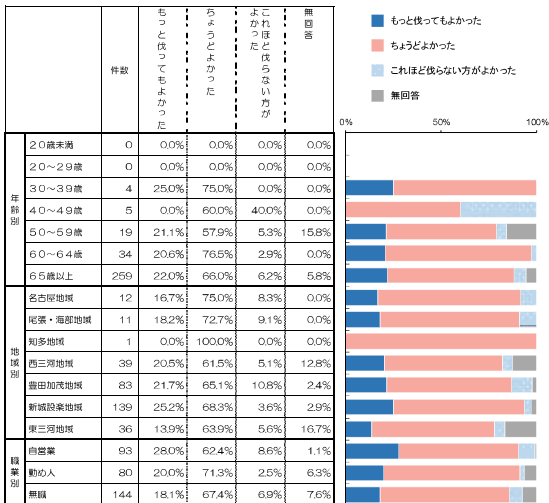


強度の間伐について、「ちょうどよかった」と答えた人の割合が66.5%と最も高く、続いて「もっと伐ってもよかった」(21.6%)、「これほど伐らない方がよかった」(6.1%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、いずれの調査も「ちょうどよかった」と答えた人の割合が最も高く、「もっと伐ってもよかった」では平成29年度(25.0%)と比べて3.4ポイント減少している。

事業-10

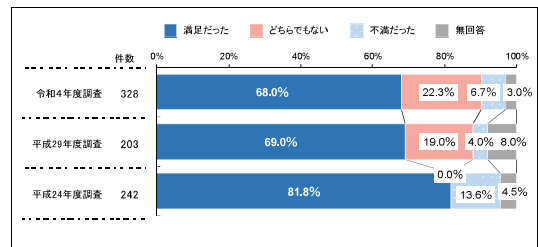
強度の間伐（年齢別、地域別、職業別）



事業-11

(4) 事業に対する満足度

問4 あいち森と緑づくり事業で行った間伐は、あなたにとって満足できるものでしたか。



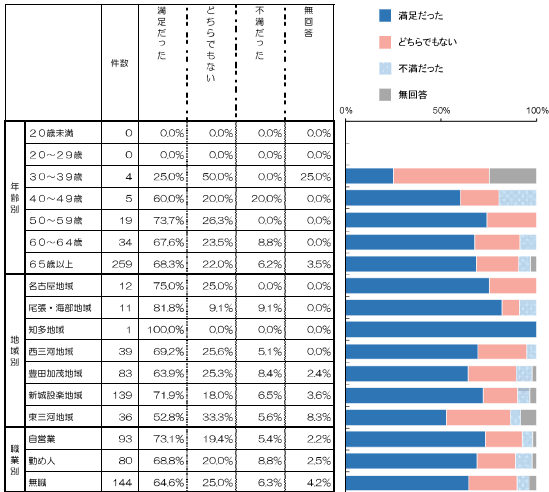
事業について、「満足だった」と答えた人の割合が68.0%と最も高く、続いて「どちらでもない」(22.3%)、「不満だった」(6.7%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「満足だった」と答えた人の割合は平成29年度(69.0%)と比べて1.0ポイント減少、「不満だった」と答えた人の割合は平成29年度(4.0%)と比べて2.7ポイント増加している。

※平成24年度調査の選択肢：「満足だった」「不満だった」のみ。

事業-12

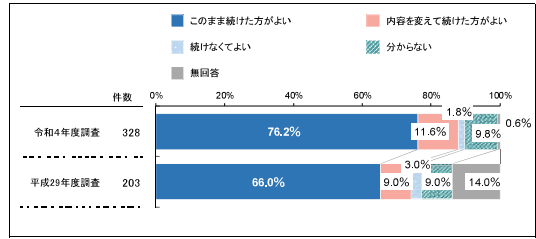
事業に対する満足度（年齢別、地域別、職業別）



事業-13

(5) 今後の事業継続

問5 あいち森と緑づくり事業による間伐を2024（令和6）年度以降も続けていった方がよいと思いますか。

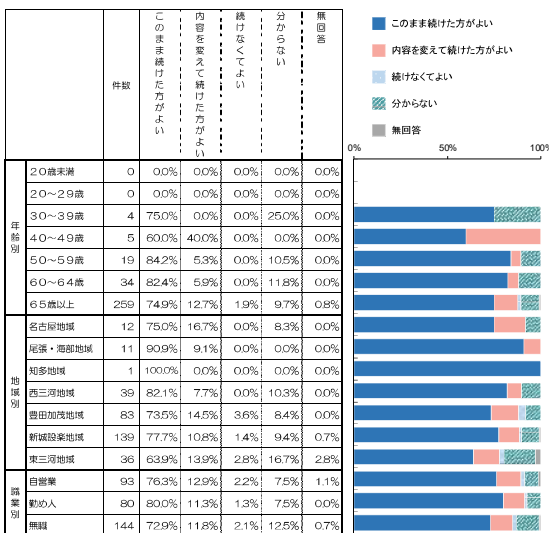


今後の事業継続について、「このまま続けた方がよい」と答えた人の割合が76.2%と最も高く、続いて「内容を変えて続けた方がよい」（11.6%）、「分からない」（9.8%）の順となっている。

過去の調査と比較すると、いずれの調査も「このまま続けた方がよい」と答えた人の割合は6～7割を占め、令和4年度（76.2%）は平成29年度（66.0%）と比べて10.2ポイント増加している。

事業-14

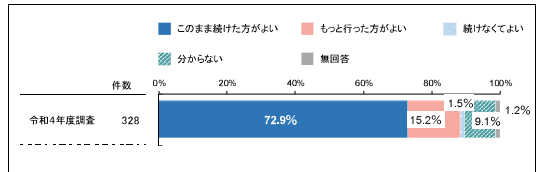
今後の事業継続（年齢別、地域別、職業別）



事業-15

(6) 防災・減災対策の継続

問6 あいち森と緑づくり事業では、防災・減災対策を進めるため、道路沿い、河川沿い、集落周辺の森林（人工林の間伐に加えて、広葉樹も含む）の整備を行うことができます。2024（令和6）年度も防災・減災対策を続けた方がよいと思いますか。

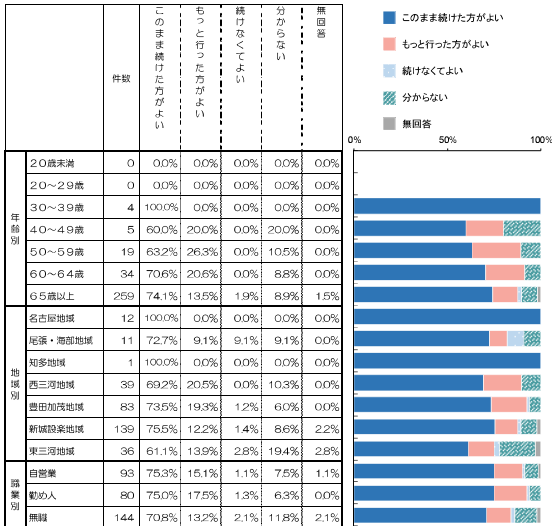


防災・減災対策の継続について、「このまま続けた方がよい」（72.9%）と「もっと行った方がよい」（15.2%）を合わせた「続けた方がよい」と答えた人の割合が88.1%であったのに対し、「続けなくてよい」と答えた人の割合は1.5%となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

事業-16

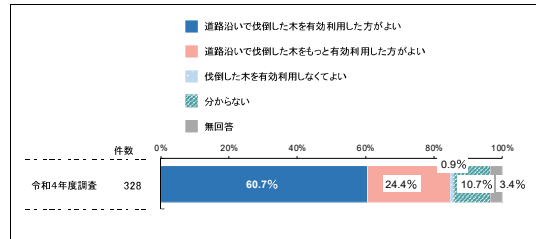
防災・減災対策の継続（年齢別、地域別、職業別）



事業-17

(7) 伐倒木有効利用の継続

問7 あいち森と緑づくり事業では、道路沿いで木を伐倒するには費用がかかりますが、森林外の安全な場所まで移動した後、木材として有効利用しています。今後も伐倒木の有効利用を続けた方がよいと思いますか。

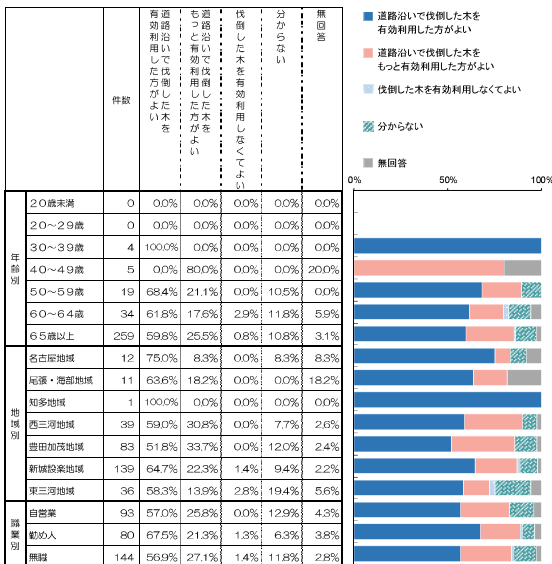


伐倒木有効利用の継続について、「道路沿いで伐倒した木を有効利用した方がよい」(60.7%)と「道路沿いで伐倒した木をもっと有効利用した方がよい」(24.4%)を合わせた「有効利用した方がよい」と答えた人の割合が85.1%であったのに対し、「伐倒した木を有効利用しなくてよい」と答えた人の割合は0.9%となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

事業-18

伐倒木有効利用の継続（年齢別、地域別、職業別）



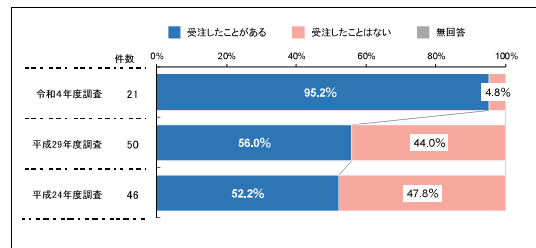
事業-19

2 人工林整備事業（間伐） 事業者アンケート

送付数：21/回答数：21 回答率：100%

(1) 事業受注の有無

問1 貴社は、あいち森と緑づくり事業（人工林整備事業）を受注したことがありますか。



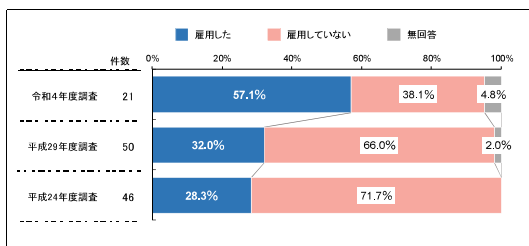
事業受注について、「受注したことがある」と答えた業者の割合が95.2%であったのに対し、「受注したことはない」と答えた業者の割合は4.8%となっている。

過去の調査と比較すると、平成24年度、平成29年度調査では「受注したことがある」と「受注したことはない」と答えた業者の割合がそれぞれおよそ半数であったのに対し、令和4年度では「受注したことがある」と答えた業者の割合は9割を超えて高くなっている。

事業-20

(2) 事業開始による新規雇用の有無

問2 貴社は、あいち森と緑づくり事業が始まったことをきっかけに新規就労者を雇いましたか。



事業開始による新規雇用について、「雇用了」と答えた業者の割合が57.1%であったのに対し、「雇っていない」と答えた業者の割合は38.1%となっている。

過去の調査と比較すると、「雇用了」と答えた業者の割合は増加の傾向がみられる。

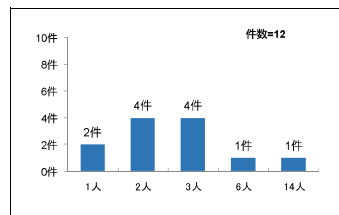
事業-21

(3) 新規就労者の事業への従事状況

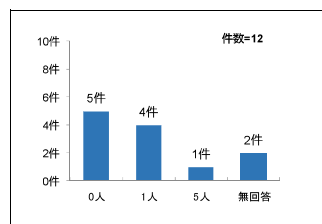
問3 問2で「1. 雇用了」と答えた方にお聞きします。

① 雇用了就労者は何人ですか。

<雇用了就労者>

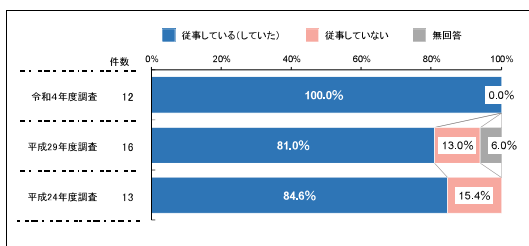


<上記のうち継続者>



事業-22

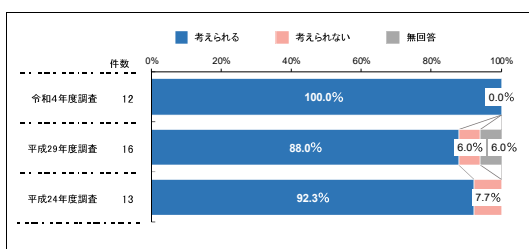
② 雇用了就労者はあいち森と緑づくり事業に従事しています（していました）か。



新規就労者の事業への従事状況について、「従事している（していた）」と答えた業者の割合は100.0%となっている。

過去の調査と比較すると、いずれの調査も「従事している（していた）」と答えた業者の割合が高くなっている。

③ あいち森と緑づくり事業が会社の雇用に効果があった（雇用するきっかけとなった）と考えられますか。



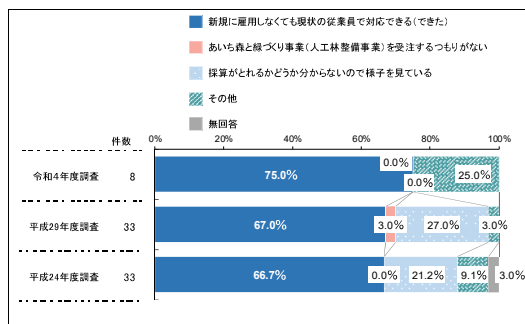
事業の雇用効果について、「考えられる」と答えた業者の割合は100.0%となっている。過去の調査と比較すると、いずれの調査も「考えられる」と答えた業者の割合が高くなっている。

事業-23

(4) 新規雇用しなかった理由

問4 問2で「2. 雇っていない」と答えた方にお聞きします。

雇用しなかった理由は何ですか。



新規雇用しなかった理由について、「新規に雇用しなくても現状の従業員で対応できる（できた）」と答えた業者の割合が75.0%と最も高くなっている。

過去の調査と比較すると、いずれの調査も「新規に雇用しなくても現状の従業員で対応できる（できた）」と答えた業者の割合が6割を超えて最も高くなっている。

事業-24

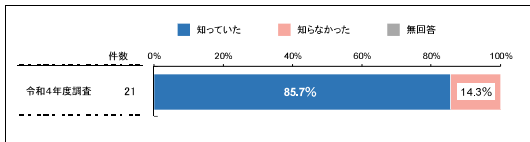
(5) 事業に従事していない理由

問5 問3-2で「2. 従事していない」と答えた方にお聞きします。従事していない理由は何ですか。

※事業に従事していない理由について、回答の対象者なし。

(6) 間伐とSDGsの関係

問6 間伐や森林が若返ることは、二酸化炭素吸収量を増やす（カーボンニュートラルの取組に貢献）とともに、SDGsの様々なゴールにつながっていることを知っていましたか。



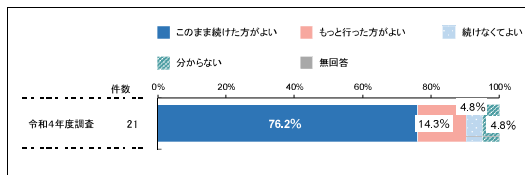
間伐とSDGsの関係について、「知っていた」と答えた業者の割合が85.7%であったのに対し、「知らなかった」と答えた業者の割合は14.3%となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

事業-25

(7) 防災・減災対策の継続

問7 あいち森と緑づくり事業では、防災・減災対策を進めるため、道路沿い、河川沿い、集落周辺の森林（人工林の間伐に加えて、広葉樹も含む。）の整備を行うことができます。2024（令和6）年度も防災・減災対策を続けた方がよいと思いますか。

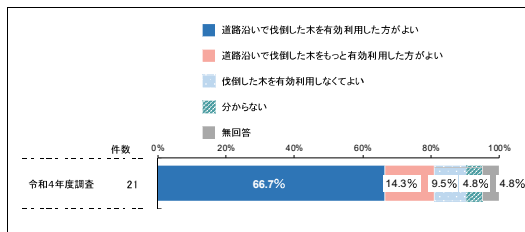


防災・減災対策の継続について、「このまま続けた方がよい」（76.2%）と「もって行った方がよい」（14.3%）を合わせた「続けた方がよい」と答えた業者の割合が90.5%であったのに対し、「続けなくてよい」と答えた業者の割合は4.8%となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

(8) 伐倒木有効利用の継続

問8 あいち森と緑づくり事業では、道路沿いで木を伐倒するには費用がかかりますが、森林外の安全な場所まで移動した後、木材として有効利用しています。今後も伐倒木の有効利用を続けた方がよいと思いますか。



伐倒木有効利用の継続について、「道路沿いで伐倒した木を有効利用した方がよい」（66.7%）と「道路沿いで伐倒した木をもっと有効利用した方がよい」（14.3%）を合わせた「有効利用した方がよい」と答えた業者の割合が81.0%であったのに対し、「伐倒した木を有効利用しなくてよい」と答えた業者の割合は9.5%となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

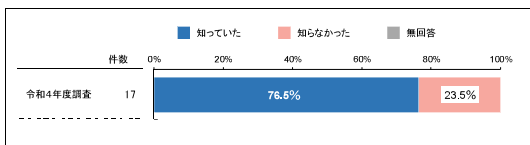
事業-26

3 人工林整備事業（花粉症対策苗木の植栽） 森林所有者アンケート

送付数：24/回答数：17 回答率：70.8%

(1) 森林が若返ることとSDGsの関係

問1 間伐や森林が若返ることは、二酸化炭素吸収量を増やす（カーボンニュートラルの取組に貢献）とともに、SDGsの様々なゴールにつながっていることを知っていましたか。

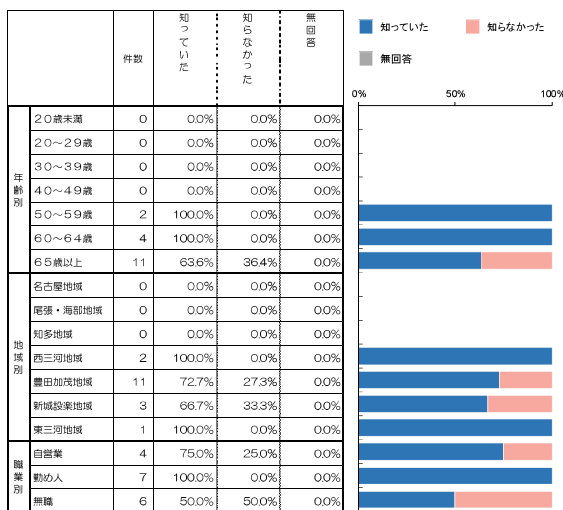


森林が若返ることとSDGsの関係について、「知っていた」と答えた人の割合が76.5%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は23.5%となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

事業-27

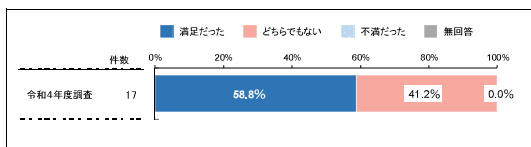
森林が若返ることとSDGsの関係（年齢別、地域別、職業別）



事業-28

(2) 事業に対する満足度（花粉症対策苗木の植栽）

問2 あいち森と緑づくり事業で行った花粉の少ないスギ・ヒノキ品種や広葉樹（以下、「花粉症対策」という。）の苗木の植栽は、あなたにとって満足できるものでしたか。

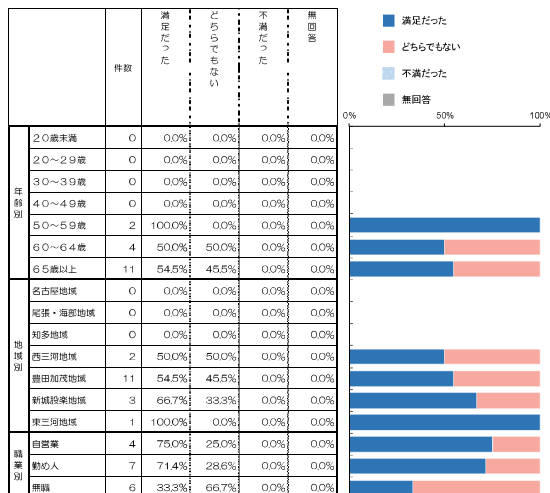


事業（花粉症対策苗木の植栽）について、「満足だった」と答えた人の割合が58.8%と最も高く、続いて「どちらでもない」（41.2%）となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

事業-29

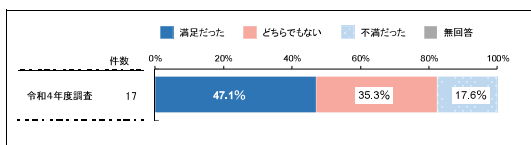
事業に対する満足度（花粉症対策苗木の植栽）（年齢別、地域別、職業別）



事業-30

(3) 事業に対する満足度（獣害防止対策）

問3 あいち森と緑づくり事業で行った獣害防止の対策は、あなたにとって満足できるものでしたか。

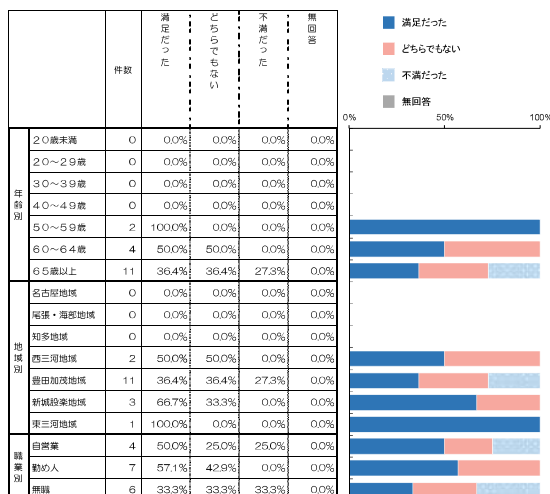


事業（獣害防止対策）について、「満足だった」と答えた人の割合が47.1%と最も高く、続いて「どちらでもない」（35.3%）、「不満だった」（17.6%）の順となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

事業-31

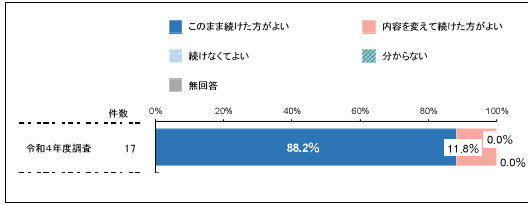
事業に対する満足度（獣害防止対策）（年齢別、地域別、職業別）



事業-32

(4) 今後の事業継続

問4 あいち森と緑づくり事業による花粉症対策苗木の植栽と獣害対策を2024（令和6）年度以降も続けていった方がよいと思いますか。

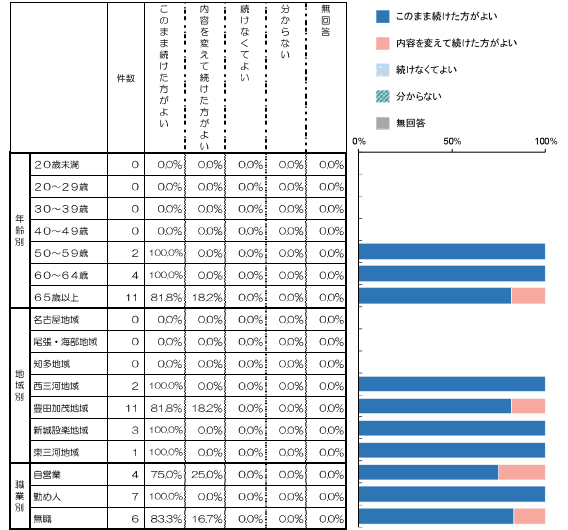


今後の事業継続について、「このまま続けた方がよい」と答えた人の割合が88.2%と最も高く、「内容を変えて続けた方がよい」と答えた人の割合は11.8%となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

事業-33

今後の事業継続（年齢別、地域別、職業別）



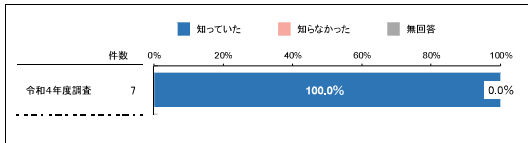
事業-34

4 人工林整備事業（花粉症対策苗木の植栽） 事業者アンケート

送付数：7/回答数：7 回答率：100%

(1) 森林が若返ることとSDGsの関係

問1 間伐や森林が若返ることは、二酸化炭素吸収量を増やす（カーボンニュートラルの取組に貢献）とともに、SDGsの様々なゴールにつながっていることを知っていましたか。

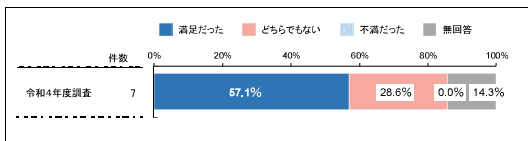


森林が若返ることとSDGsの関係について、「知っていた」と答えた業者の割合は100%となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

(2) 事業に対する満足度（花粉症対策苗木の植栽）

問2 あいち森と緑づくり事業で行った花粉の少ないスギ・ヒノキ品種や広葉樹（以下、「花粉症対策」という。）の苗木の植栽は、あなたにとって満足できるものでしたか。



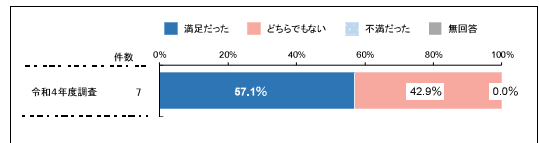
事業（花粉症対策苗木の植栽）について、「満足だった」と答えた業者の割合が57.1%と最も高く、続いて「どちらでもない」（28.6%）となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

事業-35

(3) 事業に対する満足度（獣害防止対策）

問3 あいち森と緑づくり事業で行った獣害防止の対策は、あなたにとって満足できるものでしたか。

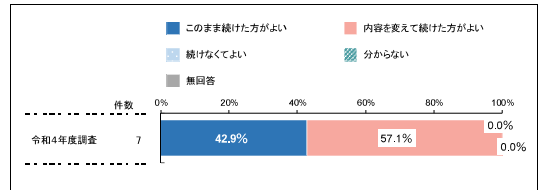


事業（獣害防止対策）について、「満足だった」と答えた業者の割合が57.1%と最も高く、続いて「どちらでもない」（42.9%）となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

(4) 今後の事業継続

問4 あいち森と緑づくり事業による花粉症対策苗木の植栽と獣害対策を2024（令和6）年度以降も続けていった方がよいと思いますか。



今後の事業継続について、「内容を変えて続けた方がよい」と答えた業者の割合が57.1%と最も高く、続いて「このまま続けた方がよい」（42.9%）となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

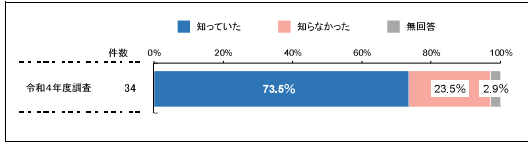
事業-36

5 提案型里山林整備事業 森林所有者アンケート

送付数：45/回答数：34 回答率：75.6%

(1) 森や緑を育むこと・木材利用とSDGsの関係

問1 森や緑を育むことや木材を利用することは、二酸化炭素吸収量を増やす(カーボンニュートラルの取組に貢献)とともに、SDGsの様々なゴールにつながっていることを知っていましたか。

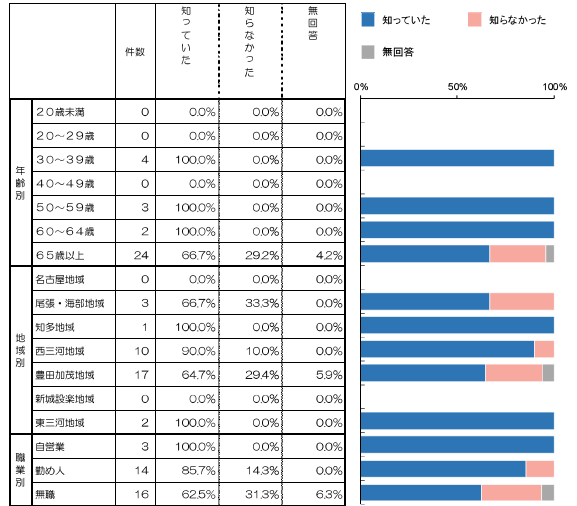


森や緑を育むこと・木材利用とSDGsの関係について、「知っていた」と答えた人の割合が73.5%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は23.5%となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

事業-37

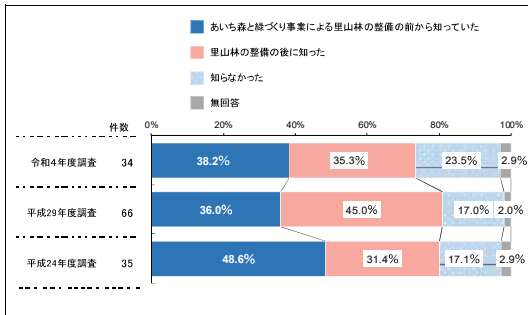
森や緑を育むこと・木材利用とSDGsの関係(年齢別、地域別、職業別)



事業-38

(2) 里山林整備の認知度

問2 生活環境の保全や災害の防止、生物多様性の保全などの公益的機能を回復させるため、里山林を整備する必要があることを知っていましたか。

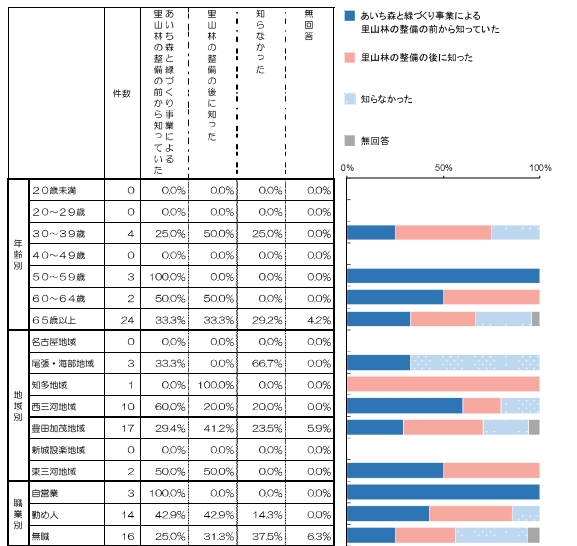


里山林整備について、「あいち森と緑づくり事業による里山林の整備の前から知っていた」と答えた人の割合が38.2%と最も高く、続いて「里山林の整備の後に知った」(35.3%)、「知らなかった」(23.5%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「知らなかった」と答えた人の割合が平成29年度(17.0%)と比べて6.5ポイント増加している。

事業-39

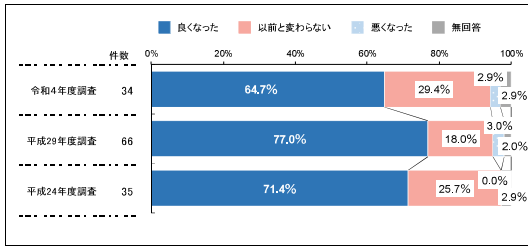
里山林整備の認知度(年齢別、地域別、職業別)



事業-40

(3) 事業実施による効果

問3 あいち森と緑づくり事業による里山林の整備で、あなたの森林が良くなったと思いますか。

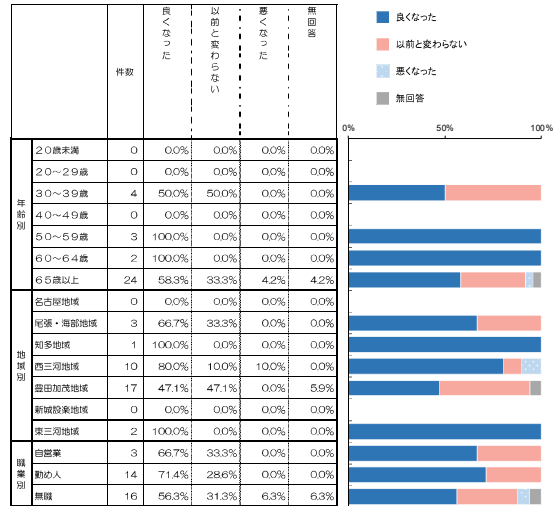


事業実施による効果について、「良くなった」と答えた人の割合が64.7%と最も高く、続いて「以前と変わらない」(29.4%)、「悪くなった」(2.9%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「以前と変わらない」と答えた人の割合が平成29年度(18.0%)と比べて11.4ポイント増加している。

事業-41

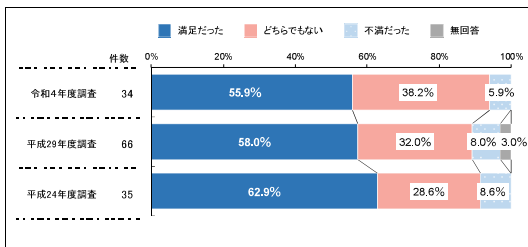
事業実施による効果(年齢別、地域別、職業別)



事業-42

(4) 事業に対する満足度

問4 あいち森と緑づくり事業による里山林の整備は、あなたにとって満足できるものでしたか。

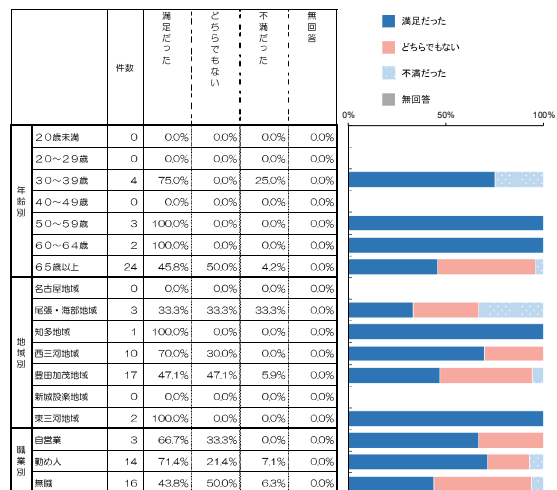


事業について、「満足だった」と答えた人の割合が55.9%と最も高く、続いて「どちらでもない」(38.2%)、「不満だった」(5.9%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、いずれの調査も「満足だった」と答えた人の割合が最も高く、5~6割程度となっている。

事業-43

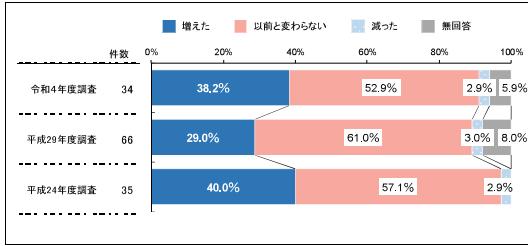
事業に対する満足度(年齢別、地域別、職業別)



事業-44

(5) 整備後に森林に行く回数

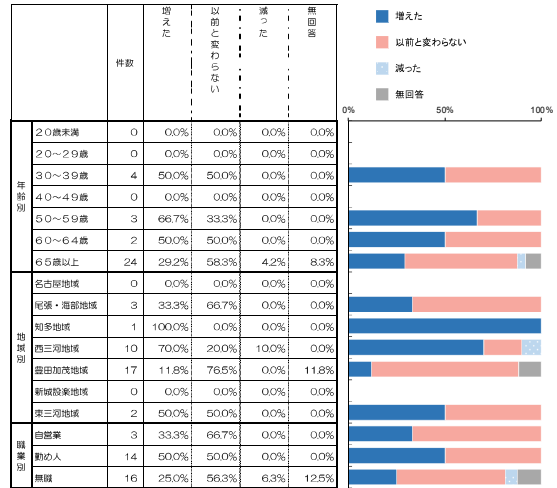
問5 あいち森と緑づくり事業による里山林の整備を行ったことで、あなたはその森林に行く回数が増えましたか。



整備後に森林に行く回数について、「以前と変わらない」と答えた人の割合が52.9%と最も高く、続いて「増えた」(38.2%)、「減った」(2.9%)の順となっている。

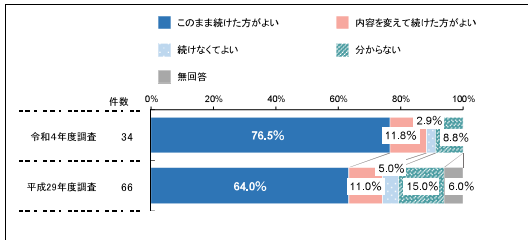
過去の調査と比較すると、「増えた」と答えた人の割合は、平成29年度(29.0%)と比べて9.2ポイント増加している。

整備後に森林に行く回数(年齢別、地域別、職業別)



(6) 今後の事業継続

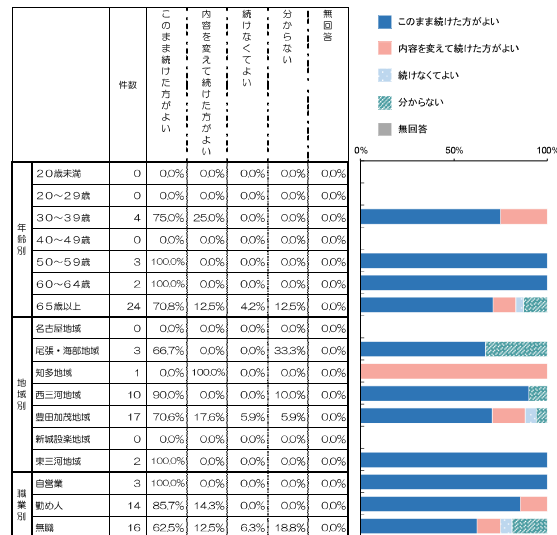
問6 あいち森と緑づくり事業による里山林の整備を、2024(令和6)年度以降も続けたい方がよいと思いますか。



今後の事業継続について、「このまま続けた方がよい」と答えた人の割合が76.5%と最も高く、続いて「内容を変えて続けた方がよい」(11.8%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「このまま続けた方がよい」と答えた人の割合が平成29年度(64.0%)と比べて12.5ポイント増加している。

今後の事業継続(年齢別、地域別、職業別)

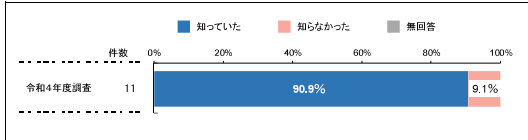


6 提案型里山林整備事業 地域活動団体アンケート

送付数：12/回答数：11 回答率：91.7%

(1) 森や緑を育むこと・木材利用とSDGsの関係

問1 森や緑を育むことや木材を利用することは、二酸化炭素吸収量を増やす(カーボンニュートラルの取組に貢献)とともに、SDGsの様々なゴールにつながっていることを知っていましたか。



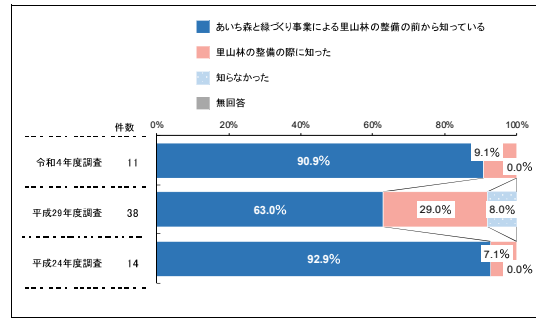
森や緑を育むこと・木材利用とSDGsの関係について、「知っていた」と答えた業者の割合が90.9%であったのに対し、「知らなかった」と答えた業者の割合は9.1%となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

事業-49

(2) 里山林整備の認知度

問2 生活環境の保全や災害の防止、生物多様性の保全などの公益的機能を回復させるため、里山林を整備する必要があることを知っていますか。



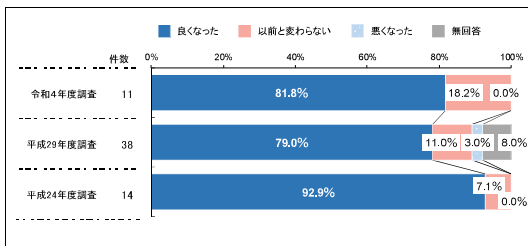
里山林整備について、「あいち森と緑づくり事業による里山林の整備の前から知っている」と答えた業者の割合が90.9%と最も高く、続いて「里山林の整備の際に知った」(9.1%)となっている。

過去の調査と比較すると、いずれの調査も「あいち森と緑づくり事業による里山林の整備の前から知っている」の割合が最も高くなっている。

事業-50

(3) 事業実施による森林の変化

問3 あいち森と緑づくり事業による里山林の整備で、あなたが関わっている森林が良くなったと思いますか。



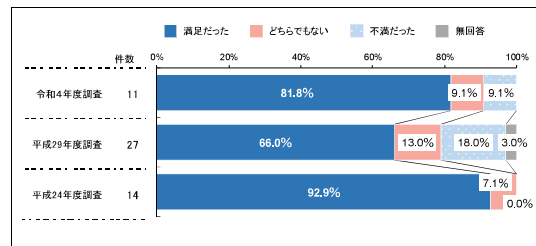
事業実施による森林の変化について、「良くなった」と答えた業者の割合が81.8%と最も高く、続いて「以前と変わらない」(18.2%)となっている。

過去の調査と比較すると、いずれの調査も「良くなった」と答えた業者の割合が最も高くなっている。

事業-51

(4) 事業に対する満足度

問4 あいち森と緑づくり事業による里山林の整備は、あなたがたにとって満足できるものでしたか。



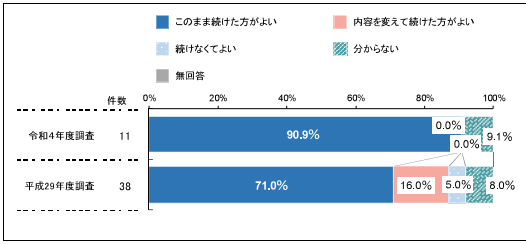
事業について、「満足だった」と答えた業者の割合が81.8%と最も高く、続いて「どちらでもない」、「不満だった」(2項目とも9.1%)となっている。

過去の調査と比較すると、いずれの調査も「満足だった」と答えた業者の割合が最も高くなっている。

事業-52

(5) 今後の事業継続

問5 あいち森と緑づくり事業による里山林の整備を、県内の各地で2024（令和6）年度以降も続けたい方がよいと思えますか。



今後の事業継続について、「このまま続けたい方がよい」と答えた業者の割合が90.9%と最も高く、続いて「分からない」(9.1%)となっている。

過去の調査と比較すると、いずれの調査も「このまま続けたい方がよい」と答えた業者の割合が最も高くなっている。

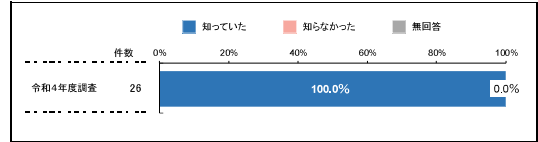
事業-53

7 都市緑化推進事業 施設管理者アンケート

送付数：35/回答数：26 回答率：74.3%

(1) 都市緑化の推進とSDGsの関係

問1 都市の緑を増やし守り育てることは、二酸化炭素吸収量を増やす（カーボンニュートラルの取組に貢献）とともに、SDGsの様々なゴールにつながっていることを知っていましたか。



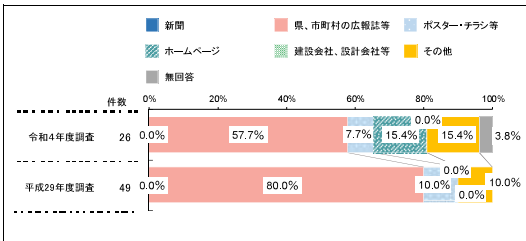
都市緑化の推進とSDGsの関係について、「知っていた」と答えた人の割合は100%となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

事業-54

(2) 事業を知った手段

問2 あいち森と緑づくり都市緑化推進事業は、どこで知りましたか。

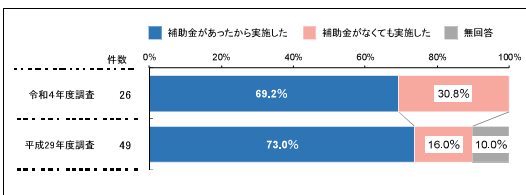


事業を知った手段について、「県、市町村の広報誌等」と答えた人の割合が57.7%と最も高く、続いて「ホームページ」(15.4%)となっている。

過去の調査と比較すると、「ホームページ」と答えた人の割合が平成29年度(0.0%)と比べて増加の傾向がみられる。

(3) 事業実施の理由

問3 施設の緑化を行ったのは、あいち森と緑づくり事業の補助金があったからですか。



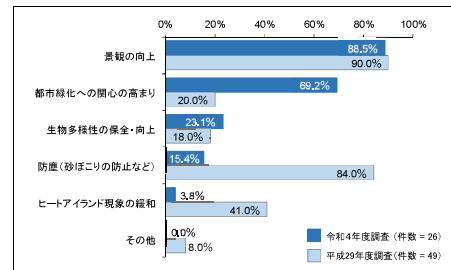
事業実施の理由について、「補助金があったから実施した」と答えた人の割合が69.2%であったのに対し、「補助金がなくとも実施した」と答えた人の割合は30.8%となっている。

過去の調査と比較すると、いずれの調査も「補助金があったから実施した」と答えた人の割合が7割程度と高くなっている。

事業-55

(4) 事業実施による効果（直接的効果）

問4 あいち森と緑づくり都市緑化推進事業の実施により、実際に効果があったと感じることはありますか。（複数回答可）



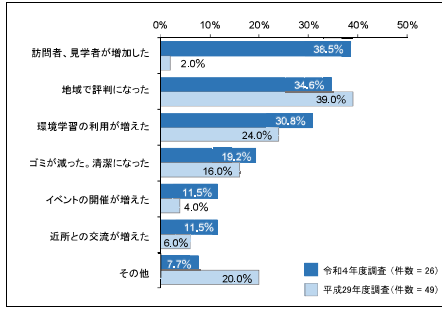
事業実施による効果（直接的効果）について、「景観の向上」と答えた人の割合が88.5%と最も高く、続いて「都市緑化への関心の高まり」(69.2%)、「生物多様性の保全・向上」(23.1%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、いずれの調査も「景観の向上」と答えた人の割合が最も高く、「都市緑化への関心の高まり」では増加の傾向がみられる。

事業-56

(5) 事業実施による効果（間接的効果）

問5 あいち森と緑づくり都市緑化推進事業の実施箇所において良かったことはありますか。（複数回答可）



事業実施による効果（間接的効果）について、「訪問者、見学者が増加した」と答えた人の割合が38.5%と最も高く、続いて「地域で評判になった」（34.6%）、「環境学習の利用が増えた」（30.8%）の順となっている。

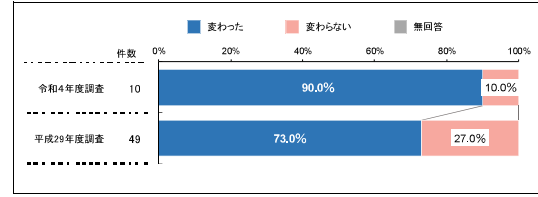
過去の調査と比較すると、「訪問者、見学者が増加した」と答えた人の割合が平成29年度（2.0%）と比べて大きな増加の傾向がみられる。

事業-57

(6) 事業実施による校庭・園庭の利用のしかたの変化

（※問6から問9は、芝生化を実施された事業者の方のみご回答ください。）

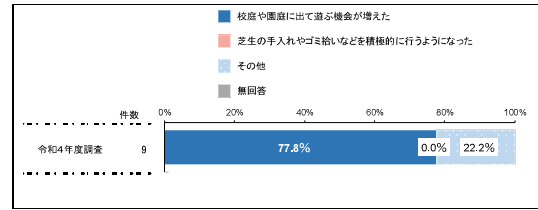
問6 校庭・園庭を芝生化したことにより、子どもたちの利用のしかたは変わりましたか。また、どのように変わりましたか。



事業実施による校庭・園庭の利用のしかたの変化について、「変わった」と答えた人の割合が90.0%であったのに対し、「変わらない」と答えた人の割合は10.0%となっている。過去の調査と比較すると、いずれの調査も「変わった」と答えた人の割合が高くなっている。

(7) 事業実施による子どもたちの変化

問7 子どもたちの利用のしかたは、どのように変わりましたか。



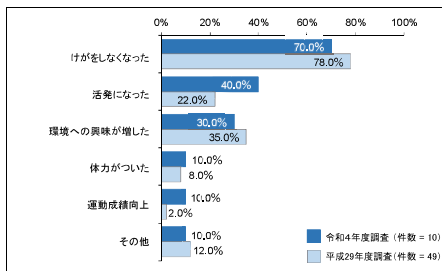
事業実施による子どもたちの変化について、「校庭や園庭に出て遊ぶ機会が増えた」と答えた人の割合が77.8%と最も高くなっている。

※平成29年度回答…複数回答のため令和4年度のみ掲載。

事業-58

(8) 事業実施による子どもたちへの効果

問8 芝生化したことで子どもたちへどのような効果がありましたか。（複数回答可）



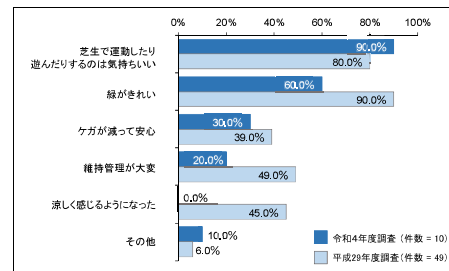
事業実施による子どもたちへの効果について、「けがをしなくなった」と答えた人の割合が70.0%と最も高く、続いて「活発になった」（40.0%）、「環境への興味が増した」（30.0%）の順となっている。

過去の調査と比較すると、いずれの調査も「けがをしなくなった」と答えた人の割合が最も高くなっている。

事業-59

(9) 事業実施による子どもたちや保護者の反応

問9 子どもたちや保護者の声はいかがですか。（複数回答可）



事業実施による子どもたちや保護者の反応について、「芝生で運動したり遊んだりするのは気持ちいい」と答えた人の割合が90.0%と最も高く、続いて「緑がきれい」（60.0%）、「ケガが減って安心」（30.0%）の順となっている。

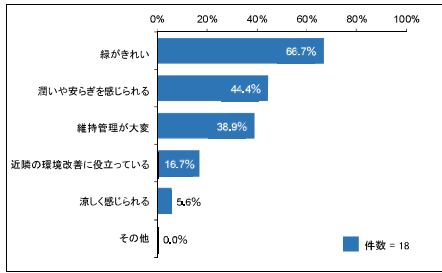
過去の調査と比較すると、いずれの調査も「芝生で運動したり遊んだりするのは気持ちいい」と答えた人の割合が高くなっている。

事業-60

(10) 事業実施による施設利用者や来訪者、従業員等の反応

(問10は、芝生化以外の緑化を実施された事業者の方にご回答ください。)

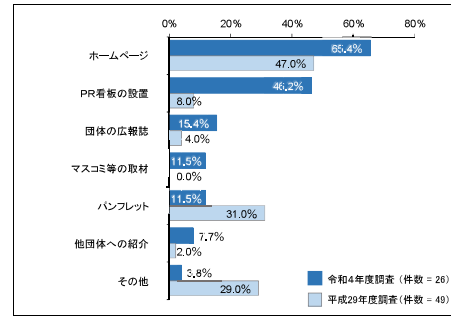
問10 緑化について、施設利用者や来訪者、従業員等の声はいかがですか。(複数回答可)



事業実施による施設利用者や来訪者、従業員等の反応について、「緑がきれい」と答えた人の割合が66.7%と最も高く、続いて「潤いや安らぎを感じられる」(44.4%)、「維持管理が大変」(38.9%)の順となっている。

(11) 緑化した施設等について、情報公開やPRをどのように行っていますか。(複数回答可)

問11 緑化した施設等について、情報公開やPRをどのように行っていますか。(複数回答可)



緑化した施設等の広報について、「ホームページ」と答えた人の割合が65.4%と最も高く、続いて「PR看板の設置」(46.2%)、「団体の広報誌」(15.4%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、いずれの調査も「ホームページ」と答えた人の割合が最も高くなっている。

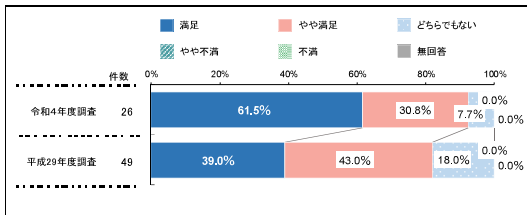
※平成29年度調査の設問:「芝生化した校庭・園庭について、情報公開やPRをどのように行っていますか。」

事業-61

事業-62

(12) 事業内容の満足度

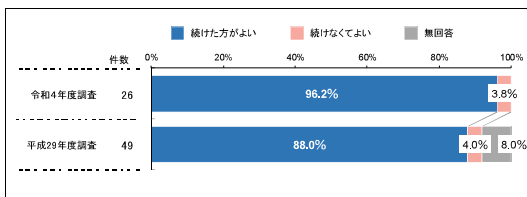
問12 あいち森と緑づくり都市緑化推進事業の内容は、満足できる事業ですか。



事業内容について、「満足」(61.5%)と「やや満足」(30.8%)を合わせた「満足」と答えた人の割合が92.3%であったのに対し、「やや不満」「不満」と答えた人はいなかった。過去の調査と比較すると、「満足」と答えた人の割合が平成29年度(82.0%)と比べて10.3ポイント増加している。

(13) 今後の事業継続

問13 あいち森と緑づくり都市緑化推進事業を2024(令和6)年度以降も続けた方がよいと思いますか。



今後の事業継続について、「続けた方がよい」と答えた人の割合が96.2%であったのに対し、「続けなくてよい」と答えた人の割合は3.8%となっている。過去の調査と比較すると、いずれの調査も「続けた方がよい」と答えた人の割合が8割を超えて高くなっている。

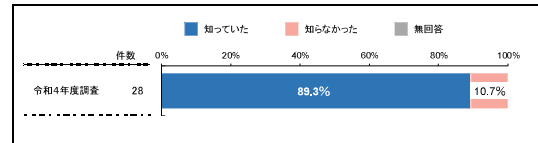
事業-63

8 都市緑化推進事業 緑地・緑化事業者アンケート

送付数: 51/回答数: 28 回答率: 54.9%

(1) 都市緑化の推進とSDGsの関係

問1 都市の緑を増やし守り育てることは、二酸化炭素吸収量を増やす(カーボンニュートラルの取組に貢献)とともに、SDGsの様々なゴールにつながっていることを知っていましたか。

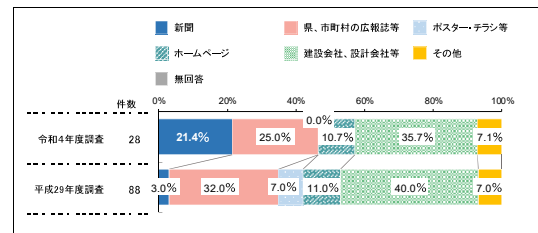


都市緑化の推進とSDGsの関係について、「知っていた」と答えた業者の割合が89.3%であったのに対し、「知らなかった」と答えた業者の割合は10.7%となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

(2) 事業を知った手段

問2 あいち森と緑づくり都市緑化推進事業は、どこで知りましたか。

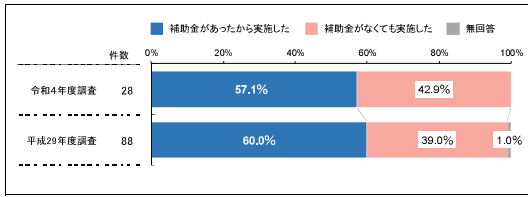


事業を知った手段について、「建設会社、設計会社等」と答えた業者の割合が35.7%と最も高く、続いて「県、市町村の広報誌等」(25.0%)、「新聞」(21.4%)の順となっている。過去の調査と比較すると、いずれの調査も「建設会社、設計会社等」と答えた業者の割合が最も高くなっている。

事業-64

(3) 事業実施の理由

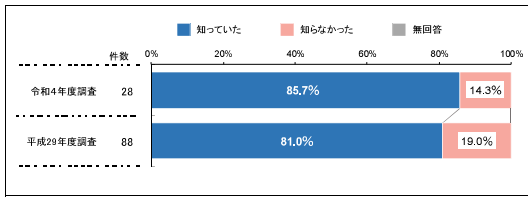
問3 あなたが今回緑化を行ったのは、あいち森と緑づくり事業の補助金があったからですか。



事業実施の理由について、「補助金があったから実施した」と答えた業者の割合が57.1%であったのに対し、「補助金がなくとも実施した」と答えた業者の割合は42.9%となっている。過去の調査と比較すると、いずれの調査も「補助金があったから実施した」と答えた業者の割合が最も高くなっている。

(4) 都市の緑の多様な機能の認知度

問4 都市の緑は「ヒートアイランド現象の緩和」「生物多様性の保全」「火災延焼防止」などの多様な機能を持っていることを知っていましたか。

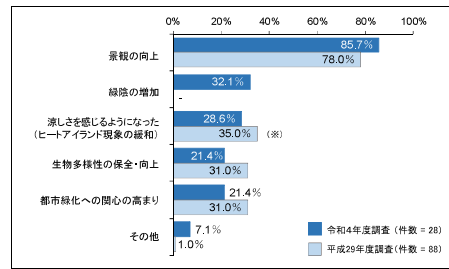


都市の緑の多様な機能について、「知っていた」と答えた業者の割合が85.7%であったのに対し、「知らなかった」と答えた業者の割合は14.3%となっている。過去の調査と比較すると、いずれの調査も「知っていた」と答えた業者の割合が8割を超えて高くなっている。

事業-65

(5) 事業実施による効果（直接的効果）

問6 あいち森と緑づくり都市緑化推進事業の実施により、実際に効果があったと感じることはありますか。（複数回答可）



事業実施による効果（直接的効果）について、「景観の向上」と答えた業者の割合が85.7%と最も高く、続いて「緑陰の増加」(32.1%)、「涼しさを感じるようになった (ヒートアイランド現象の緩和)」(28.6%)の順となっている。

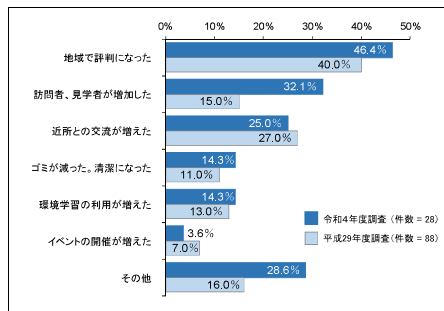
過去の調査と比較すると、いずれの調査も「景観の向上」と答えた業者の割合が最も高くなっている。

※平成29年度調査選択肢：「ヒートアイランド現象の緩和」

事業-66

(6) 事業実施による効果（間接的効果）

問5 あいち森と緑づくり都市緑化推進事業の実施により、利用の面で良かったことはありますか。（複数回答可）



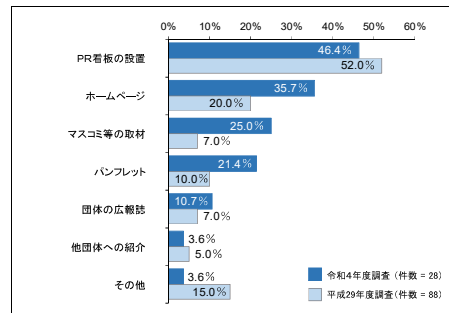
事業実施による効果（間接的効果）について、「地域で評判になった」と答えた業者の割合が46.4%と最も高く、続いて「訪問者、見学者が増加した」(32.1%)、「近所との交流が増えた」(25.0%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「訪問者、見学者が増加した」と答えた業者の割合が平成29年度(15.0%)と比べて大きく増加の傾向がみられる。

事業-67

(7) 事業実施箇所の広報

問7 あいち森と緑づくり事業の実施箇所について、情報公開・PRをどのように行っていますか。（複数回答可）



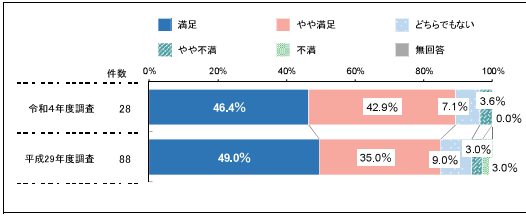
事業実施箇所の広報について、「PR看板の設置」と答えた業者の割合が46.4%と最も高く、続いて「ホームページ」(35.7%)、「マスコミ等の取材」(25.0%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、いずれの調査も「PR看板の設置」と答えた業者の割合が最も高くなっている。

事業-68

(8) 事業内容の満足度

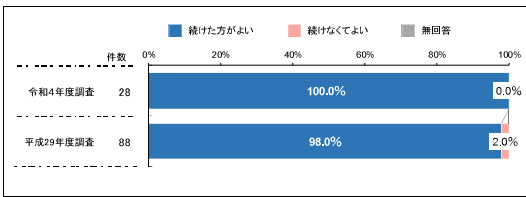
問8 あいち森と緑づくり都市緑化推進事業の内容は、満足できる事業ですか。



事業内容について、「満足」(46.4%)と「やや満足」(42.9%)を合わせた「満足」と答えた業者の割合が89.3%であったのに対し、「不満」(0.0%)と「やや不満」(3.6%)を合わせた「不満」と答えた業者の割合が3.6%となっている。
過去の調査と比較すると、「満足」と答えた業者の割合が平成29年度(84.0%)と比べて5.3ポイント増加している。

(9) 今後の事業継続

問9 あいち森と緑づくり都市緑化推進事業を2024(令和6)年度以降も続けていった方がよいと思いますか。



今後の事業継続について、「続けた方がよい」と答えた業者の割合は100.0%となっている。過去の調査と比較すると、いずれの調査も「続けた方がよい」と答えた業者の割合が非常に高くなっている。

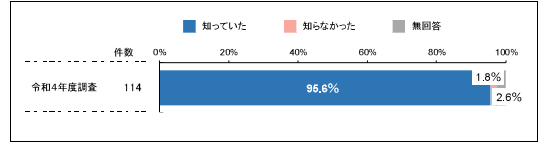
事業-69

9 環境活動・学習推進事業 事業実施団体アンケート

送付数: 140/回答数: 114 回答率: 81.4%

(1) 森林の手入れ・都市緑化とSDGsの関係

問1 森林の手入れや都市の緑化は、二酸化炭素吸収量を増やす(カーボンニュートラルの取組に貢献)とともに、SDGsの様々なゴールにつながっていることを知っていましたか。



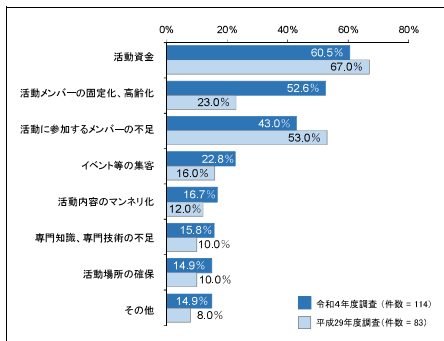
森林の手入れ・都市緑化とSDGsの関係について、「知っていた」と答えた団体の割合が95.6%であったのに対し、「知らなかった」と答えた団体の割合は1.8%となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

事業-70

(2) 活動継続の課題

問2 貴団体が活動を継続、発展させていく上で、課題となっていることは何ですか。(複数回答可)



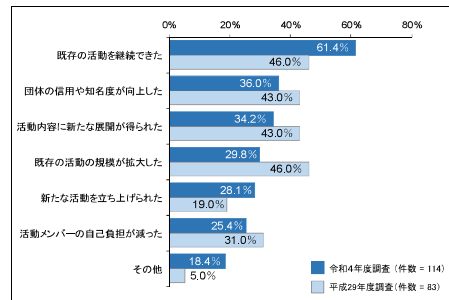
活動継続の課題について、「活動資金」と答えた団体の割合が60.5%と最も高く、続いて「活動メンバーの固定化、高齢化」(52.6%)、「活動に参加するメンバーの不足」(43.0%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、いずれの調査も「活動資金」と答えた団体の割合が6割程度と高くなっている。「活動メンバーの固定化、高齢化」と答えた団体の割合は平成29年度(23.0%)と比べて増加の傾向がみられる。

事業-71

(3) 事業実施による効果

問3 この事業を活用して、貴団体の活動にどのような効果がありましたか。(複数回答可)



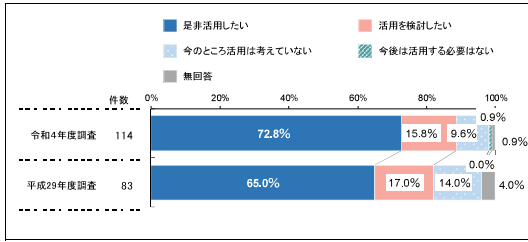
事業実施による効果について、「既存の活動を継続できた」と答えた団体の割合が61.4%と最も高く、続いて「団体の信用や知名度が向上した」(36.0%)、「活動内容に新たな展開が得られた」(34.2%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「既存の活動を継続できた」と答えた団体の割合が平成29年度(46.0%)と比べて増加の傾向がみられる。

事業-72

(4) 今後の事業活用の意向

問4 貴団体は、今後もこの事業を活用したいと考えますか。



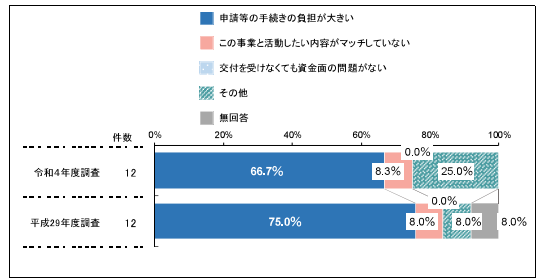
今後の事業活用について、「是非活用したい」と答えた団体の割合が72.8%と最も高く、続いて「活用を検討したい」(15.8%)、「今のところ活用は考えていない」(9.6%)の順となっている。

過去の調査と比較すると、「是非活用したい」と答えた団体の割合が平成29年度(65.0%)と比べて7.8ポイント増加している。

事業-73

(5) 事業を活用しない理由

問5 問4で「3.今のところ活用は考えていない」又は「4.今後は活用する必要はない」と回答された団体にお聞きします。この事業を活用しない理由をお書きください。



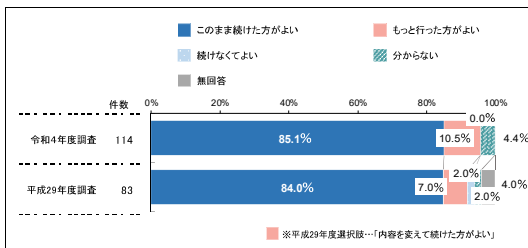
事業を活用しない理由について、「申請等の手続きの負担が大きい」と答えた団体の割合が66.7%と最も高くなっている。

過去の調査と比較すると、いずれの調査も「申請等の手続きの負担が大きい」と答えた団体の割合が高くなっている。

事業-74

(6) 今後の事業継続

問8 あいち森と緑づくり事業による環境活動・学習推進の取組を2024(令和6)年度以降も続けていった方がよいと思いますか。



今後の事業継続について、「このまま続けた方がよい」(85.1%)と「もっと行った方がよい」(10.5%)を合わせた「続けた方がよい」と答えた団体の割合が95.6%となっている。

過去の調査と比較すると、いずれの調査も「このまま続けた方がよい」と答えた団体の割合が8割を超えて高くなっている。

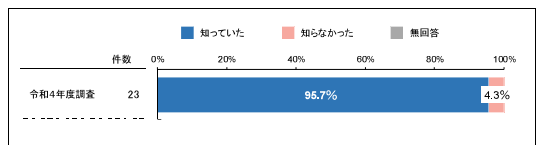
事業-75

10 木の香る都市(まち)づくり事業 支援施設(建築主様)アンケート

送付数: 32/回答数: 23 回答率: 71.9%

(1) 木材利用とSDGsの関係

問1 木材を利用することは、二酸化炭素吸収量を増やす(カーボンニュートラルの取組に貢献)とともに、SDGsの様々なゴールにつながっていることを知っていましたか。



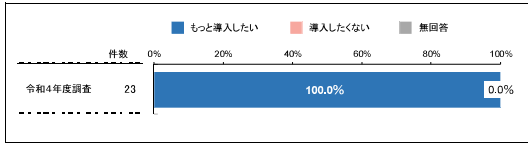
木材利用とSDGsの関係について、「知っていた」と答えた人の割合が95.7%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は4.3%となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

事業-76

(2) 事業に対する満足度

問2 あいち森と緑づくり事業（木の香る都市づくり事業）により愛知県産の木材を使用した木造施設を造ったり、内装を木質化したり、木製備品を導入していかがでしたか。

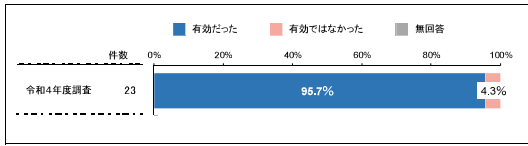


事業について、「もっと導入したい」と答えた人の割合は100.0%となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

(3) 事業の有効性

問3 木造施設や内装木質化と木製備品の導入は、森林整備の意義や木材活用の効果について施設利用者を知ってもらえただけで有効でしたか。



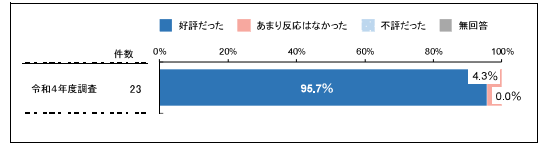
事業について、「有効だった」と答えた人の割合が95.7%であったのに対し、「有効ではなかった」と答えた人の割合は4.3%となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

事業-77

(4) 事業実施による施設利用者の反応

問4 木造施設や内装木質化と木製備品を導入したことによる施設利用者の方々の反応はいかがでしたか。

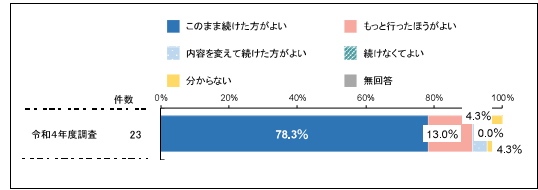


事業実施による施設利用者の反応について、「好評だった」と答えた人の割合が95.7%と最も高く、続いて「あまり反応はなかった」（4.3%）となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

(5) 今後の事業継続

問5 木の香る都市づくり事業を2024（令和6）年度以降も継続した方がよいと思いますか。



今後の事業継続について、「このまま続けた方がよい」（78.3%）と「もっと行った方がよい」（13.0%）を合わせた「続けた方がよい」と答えた人の割合が91.3%、「内容を変えて続けた方がよい」が4.3%となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

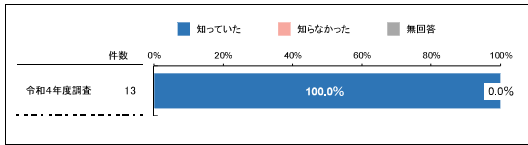
事業-78

11 木の香る都市（まち）づくり事業 建築設計者アンケート

送付数：26/回答数：13 回答率：50.0%

(1) 木材利用とSDGsの関係

問1 木材を利用することは、二酸化炭素吸収量を増やす（カーボンニュートラルの取組に貢献）とともに、SDGsの様々なゴールにつながっていることを知っていましたか。

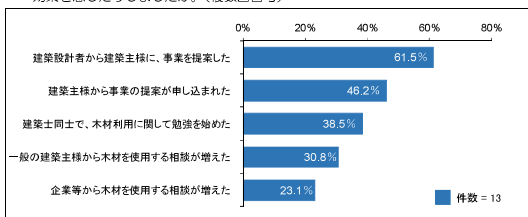


木材利用とSDGsの関係について、「知っていた」と答えた人の割合が100%となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

(2) 事業実施による効果

問2 あいち森と緑づくり事業（木の香る都市づくり事業）により愛知県産の木材を使用した木造施設を造ったり、内装を木質化したり、木製備品の導入に対して、どの様に関わりたり効果を感じたりしましたか。（複数回答可）

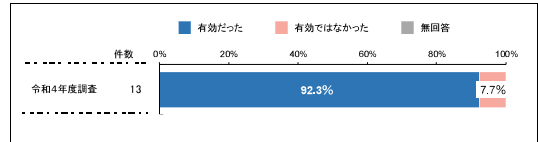


事業実施による効果について、「建築設計者から建築主様に、事業を提案した」と答えた人の割合が61.5%と最も高く、続いて「建築主様から事業の提案が申し込まれた」（46.2%）、「建築士同士で、木材利用に関して勉強を始めた」（38.5%）の順となっている。

事業-79

(3) 事業の有効性

問3 木造施設や内装木質化と木製備品の導入は、森林整備の意義や木材活用の効果について施設利用者を知ってもらえただけで有効でしたか。

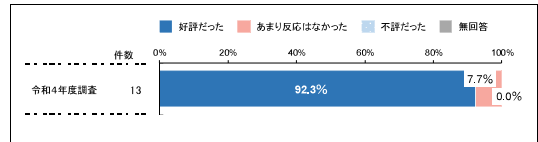


事業について、「有効だった」と答えた人の割合が92.3%であったのに対し、「有効ではなかった」と答えた人の割合は7.7%となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

(4) 事業実施による建築主様の反応

問4 木造施設や内装木質化と木製備品を導入したことによる建築主様の反応はいかがでしたか。



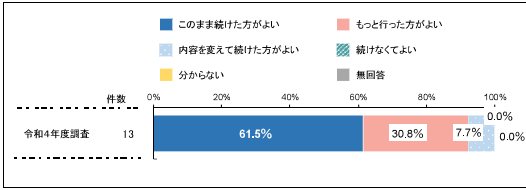
事業実施による建築主様の反応について、「好評だった」と答えた人の割合が92.3%と最も高く、続いて「あまり反応はなかった」（7.7%）となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

事業-80

(5) 今後の事業継続

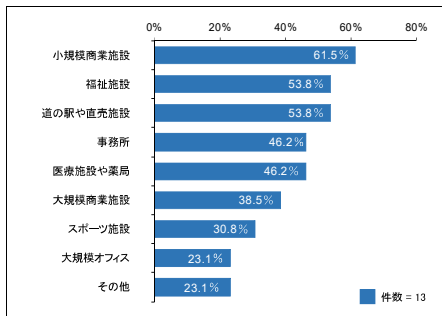
問5 木の香る都市づくり事業を2024（令和6）年度以降も続けた方がよいと思いますか。



今後の事業継続について、「このまま続けた方がよい」と答えた人の割合が61.5%と最も高く、続いて「もっと行ったほうがよい」（30.8%）、「内容を変えて続けた方がよい」（7.7%）の順となっている。
※この項目は、令和4年度から追加した。

(6) 木材利用のPRに効果的な施設

問8 あいち森と緑づくり事業（木の香る都市づくり事業）で愛知県産の木材を使用するならば、どの様な用途の施設が、木材利用をPRする上で効果的だと思いますか。（複数回答可）



木材利用のPRに効果的な施設について、「小規模商業施設」と答えた人の割合が61.5%と最も高く、続いて「福祉施設」、「道の駅や直売施設」（2項目とも53.8%）の順となっている。

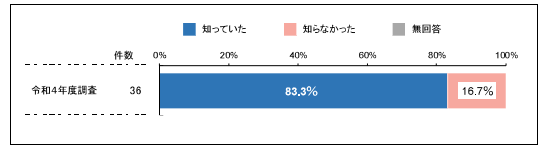
事業-81

12 里山林保全活用指導者養成研修 受講者アンケート

送付数：62/回答数：36 回答率：58.1%

(1) 森林整備とSDGsの関係

問1 森林の手入れは、二酸化炭素吸収量を増やす（カーボンニュートラルの取組に貢献）とともに、SDGsの様々なゴールにつながっていることを知っていましたか。

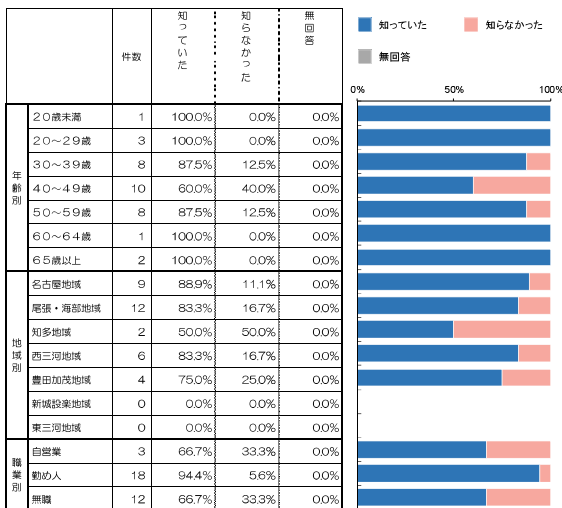


森林整備とSDGsの関係について、「知っていた」と答えた人の割合が83.3%であったのに対し、「知らなかった」と答えた人の割合は16.7%となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

事業-82

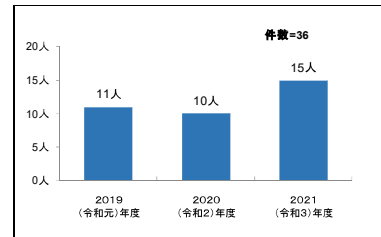
森林整備とSDGsの関係（年齢別、地域別、職業別）



事業-83

(2) 研修の受講年度

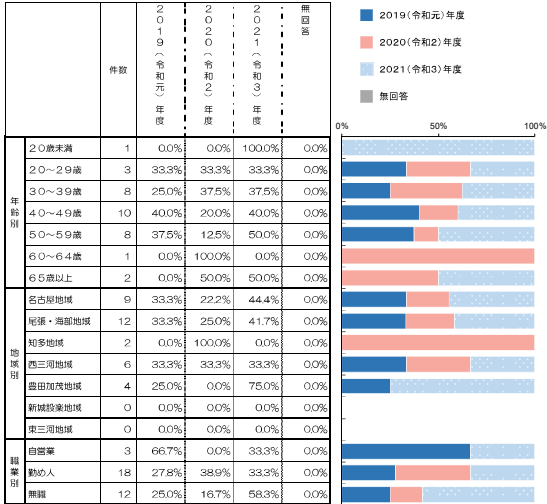
問2 研修はいつ受講しましたか。（研修修了年度でお答えください）



研修の受講年度について、「2021（令和3）年度」と答えた人数が15人と最も多く、続いて「2019（令和元）年度」（11人）、「2020（令和2）年度」（10人）の順となっている。

事業-84

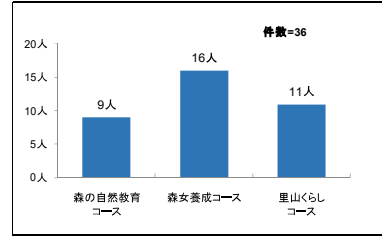
研修の受講年度（年齢別、地域別、職業別）



事業-85

(3) 受講コース

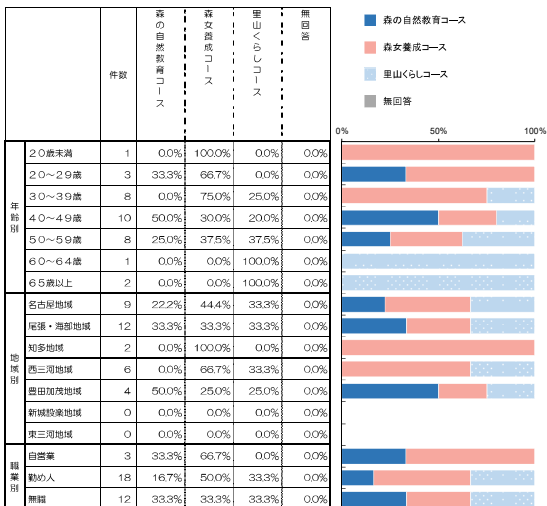
問3 里山林保全活用指導者養成研修で受講したコースはどれですか。



受講コースについて、「森女養成コース」と答えた人数が16人と最も多く、続いて「里山くらしコース」（11人）、「森の自然教育コース」（9人）の順となっている。

事業-86

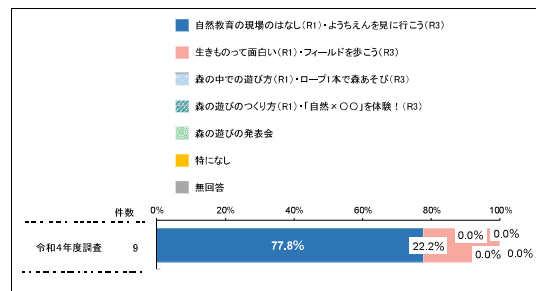
受講コース（年齢別、地域別、職業別）



事業-87

(4) 講義内容の良かった点（森の自然教育コース）

問4-1 あなたが受講した「森の自然教育コース」の講義内容で満足できるものは何でしたか。

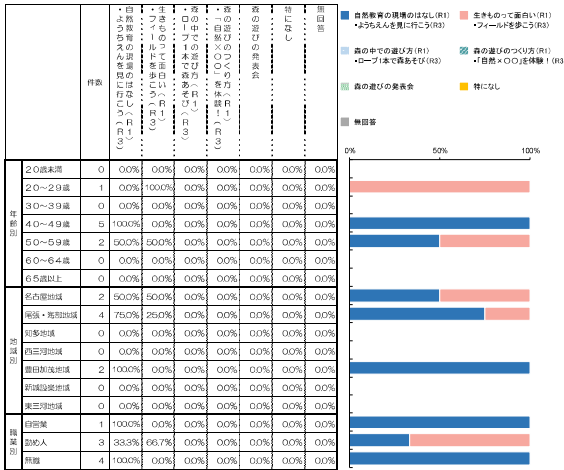


講義内容の良かった点（森の自然教育コース）について、「自然教育の現場のはなし(R1)・ようちえんを見に行こう(R3)」と答えた人の割合が77.8%と最も高く、続いて「生きものって面白い(R1)・フィールドを歩こう(R3)」（22.2%）となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

事業-88

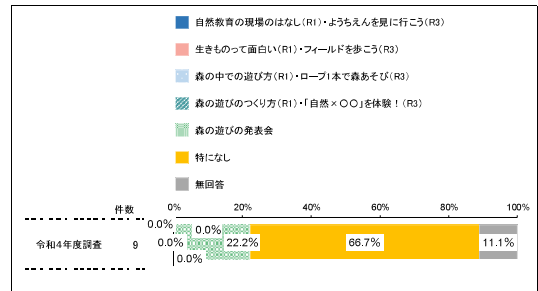
講義内容の良かった点（森の自然教育コース）（年齢別、地域別、職業別）



事業-89

(5) 講義内容の悪かった点（森の自然教育コース）

問4-2 あなたが受講した「森の自然教育コース」の講義内容で不満だったものは何でしたか。

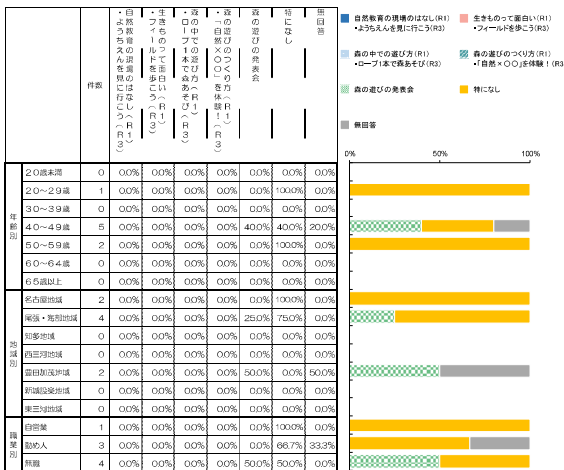


講義内容の悪かった点（森の自然教育コース）について、「特になし」と答えた人の割合が66.7%と最も高く、続いて「森の遊びの発表会」(22.2%)となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

事業-90

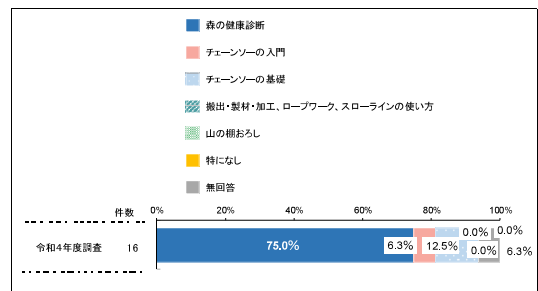
講義内容の悪かった点（森の自然教育コース）（年齢別、地域別、職業別）



事業-91

(6) 講義内容の良かった点（森女養成コース）

問5-1 あなたが受講した「森女養成コース」の講義内容で満足できるものは何でしたか。

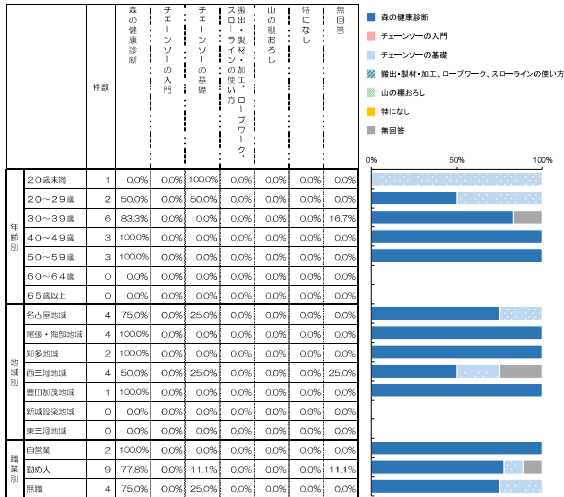


講義内容の良かった点（森女養成コース）について、「森の健康診断」と答えた人の割合が75.0%と最も高く、続いて「チェーンソーの基礎」(12.5%)、「チェーンソーの入門」(6.3%)の順となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

事業-92

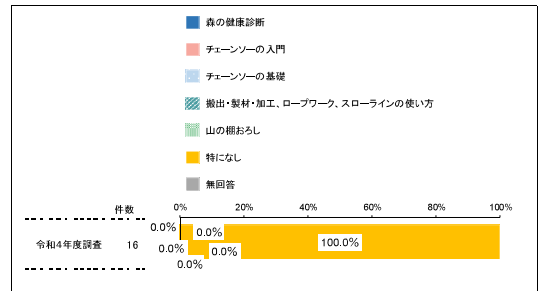
講義内容の良かった点（森女養成コース）（年齢別、地域別、職業別）



事業-93

(7) 講義内容の悪かった点（森女養成コース）

問5-2 あなたが受講した「森女養成コース」の講義内容で不満だったものは何でしたか。

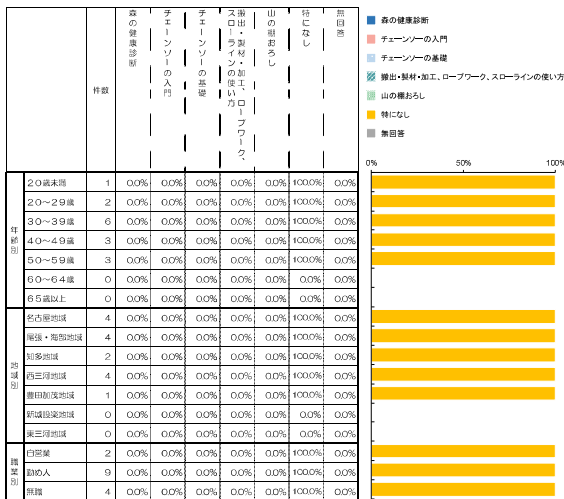


講義内容の悪かった点（森女養成コース）について、「特になし」と答えた人の割合が100%と最も高くなっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

事業-94

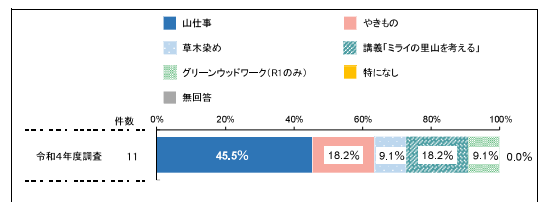
講義内容の悪かった点（里山暮らしコース）（年齢別、地域別、職業別）



事業-95

(8) 講義内容の良かった点（里山暮らしコース）

問6-1 あなたが受講した「里山暮らしコース」の講義内容で満足できるものは何でしたか。

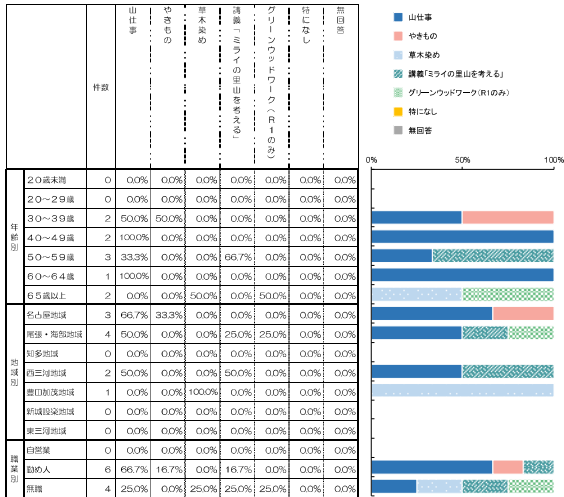


講義内容の良かった点（里山暮らしコース）について、「山仕事」と答えた人の割合が45.5%と最も高く、続いて「やきもの」、「講義『ミライの里山を考える』」（2項目とも18.2%）となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

事業-96

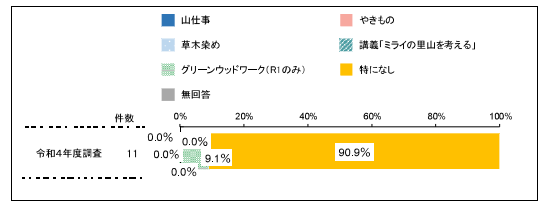
講義内容の良かった点（里山暮らしコース）（年齢別、地域別、職業別）



事業-97

(9) 講義内容の悪かった点（里山暮らしコース）

問6-2 あなたが受講した「里山暮らしコース」の講義内容で不満だったものは何でしたか。

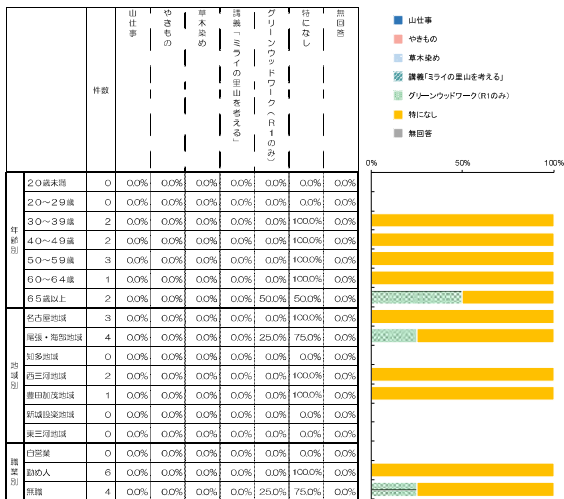


講義内容の悪かった点（里山暮らしコース）について、「特になし」と答えた人の割合が90.9%と最も高く、続いて「グリーンウッドワーク（R1のみ）」（9.1%）となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

事業-98

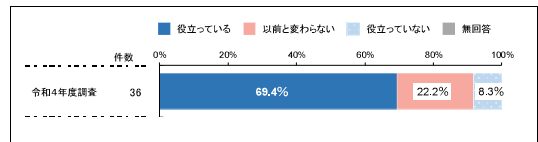
講義内容の悪かった点（里山暮らしコース）（年齢別、地域別、職業別）



事業-99

(10) 研修の有効性

問7 習得した技術が実際の里山保全活動で役立っていますか。

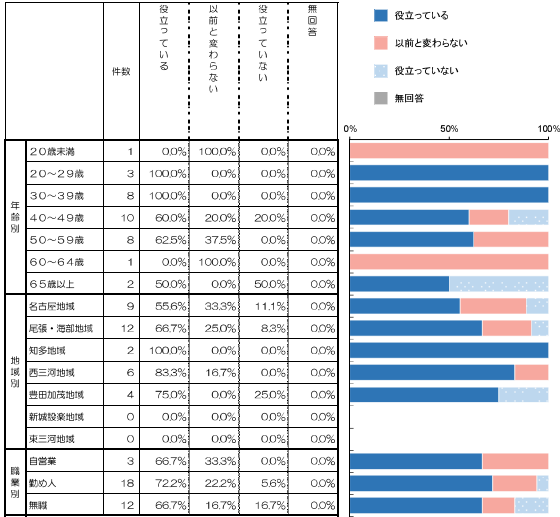


研修の有効性について、「役立っている」と答えた人の割合が69.4%と最も高く、続いて「以前と変わらない」（22.2%）、「役立っていない」（8.3%）の順となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

事業-100

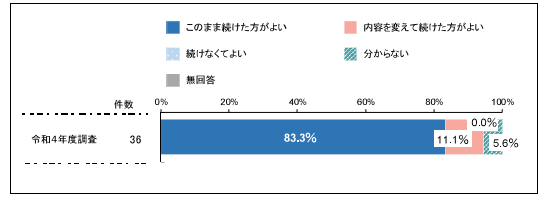
研修の有効性（年齢別、地域別、職業別）



事業-101

(11) 今後の事業継続

問8 あいち森と緑づくり事業による里山林保全活用指導者養成研修を2024（令和6）年度以降も続けたい方がよいと思いませんか。

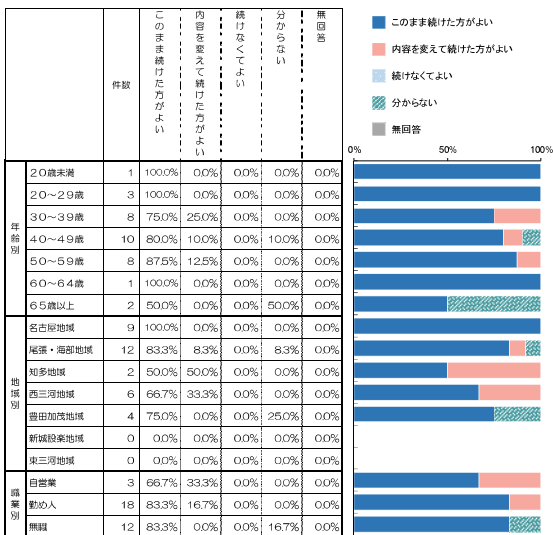


今後の事業継続について、「このまま続けた方がよい」（83.3%）と「内容を改めて続けた方がよい」（11.1%）を合わせた「続けた方がよい」と答えた人の割合は94.4%となっている。

※この項目は、令和4年度から追加した。

事業-102

今後の事業継続（年齢別、地域別、職業別）



事業-103